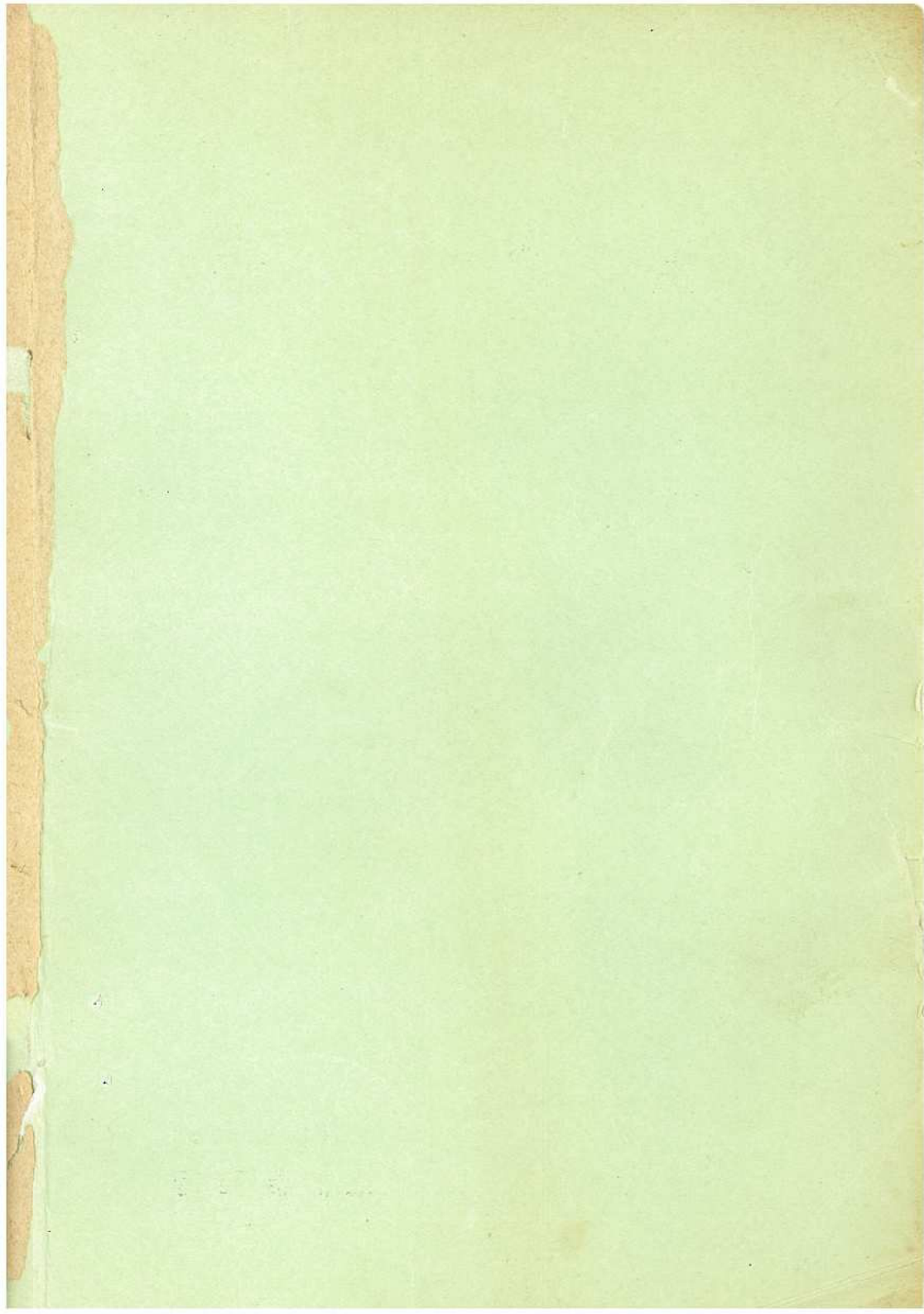


生 徒 会 誌

第 8 号

名古屋市立城山中学校  
生徒会発行



# 特集

## 城中を



# 斬る

今までの生徒会誌では、特集にクラスの素顔などをあつかって校内の情報交換の機関誌的でしたが、今年はその城中というものを、もっと大きな目で見て自分たちはいったいどんな立場にあるのだろうか。学校の立場とは、などということにふれてみようと思います。

## 目次

城中生とは、どんな人間か	2
城中及び現教育体制について	7
生徒と先生	12
城中生の考え方と行動	19
生徒会で決まった事	23

## ア ン ケ ー ト

		1 年 %		2 年 %		3 年 %		全学年 %
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	
1	利己主義	43	33	38	33	38	38	30
2	ガリ勉	33	19	67	52	57	43	48
3	何事にも無関心	62	38	62	33	38	23	45
4	まじめ	14	14	43	10	29	10	21
5	風格がある	10	10	14	5	5	0	8
6	常識的	14	14	48	10	14	5	18
7	明朗	14	33	38	29	19	38	30
8	無気力	62	33	52	19	23	10	35
9	体力、根性が欠ける	62	38	48	62	18	33	51
10	消極的	38	19	38	19	23	19	28
11	つまらない	62	5	29	10	29	23	28
12	野生味に欠ける	18	48	43	52	43	14	43
13	合理的	19	10	33	10	10	10	16
14	理屈っぽい	57	50	33	33	43	38	44
15	都会っ子	43	50	71	19	14	14	37
16	噂好き	33	29	14	14	43	38	30

ふと、「私ってどんな人間かしら。」と考えることがあると思います。ここでは「城中生とはどんな人間か」ということを次の資料をもとに考えていき、私たち城中生の姿をうきばりにしたいと思います。

### 城中生とはどんな人間か

#### 討 論 会

「城中生はどんな人間か」という事を討論した結果を次のようにまとめました。

○温室育ちのもやして根性が  
ない。

○熱意、気力がなく、考える  
だけで実行にうつせない。

一部の人にやらせておけば  
よいという無責任な人が多  
い。意志が弱い。

○批判好きで頭デッカチ。  
○成績が優秀であることはた  
しかである。がその他のも  
のは他の学校と変わらない。

勉強にこだわる。勉強に押  
しつぶされている。三年に  
なっているところへ

試験を受けに行くと、城中  
生は、他校の生徒と違い少  
しの時間もおしんでいる。

まず、アンケートを見てくださ  
い。最初に一年生男女について調  
べてみます。男子で最高の数字を  
しめたのは「無気力」「体力、根  
性などが欠ける」「つまらない」  
「何事にも無関心」この四つです。  
次に、「理屈っぽい」「都会っ子」  
「利己主義」などが続きます。女  
子はどうでしょうか。「理屈っぽ  
い」「都会っ子」が最高で、「野  
生味に欠ける」「何事にも無関心」  
となっております。

いーね。

さて、城中生になってまだまも

ない一年生の城中人間は、体力、根性などが欠け、野生味に欠ける、代表的な都会っ子で、理屈っぽく、何事にも、無関心、つまり、討論会にも出ていたように、考えるだけで実行にうつせず、一部の人にやらせればよいという無責任な人間。このような結論にたっしました。

次に、二年生の男女ではどうでしょうか。男子で最高の数字を求めたのは「都会っ子」次に「ガリ勉」「何事にも無関心」「無気力」と続きます。一年生にみられなかった「ガリ勉」がでてきたのは、「三年になると遊べないから、今のうちに遊べ」という声とともに「三年で苦勞しないように二年のうちからしっかりやれ」という声があるせいかもしれません。そろそろ二年生も、頭が痛くなる時が近づいてきています。女子は、「体力、根性などが欠ける」を最高に、「ガリ勉」「野生味に欠ける」となっています。やはり、「ガリ勉」という点では、女子も男子と同じ傾向です。ただ男子で最高を求めた「都会っ子」が、女子では八番めで低い数字なのです。ただ、女子の方にも「都会っ子」の条件がそろっているので、ちくちく感じるをうけます。

二年生の大きな特長としては、城中になれて、勉強に追い回されない一番良い学年だと言われているのですが、城中生はガリ勉だと多くの人が答えているのです。最良の学年二年生諸君、中学生生活をもう一度考えてみてくださいね。まとめて、城中生は、ガリ勉で何事にも無関心な都会っ子。こんな結論にたっしました。

さて、最後に、三年生の男女を調べてみます。男子で最高は、「ガリ勉」そして「野生味に欠ける」「噂好き」「理屈っぽい」と並びます、討論会では、三年の意見が最も多いのですが、その中の

一つ、「試験を受けに行つて感じることは、勉強に押しつぶされていく。また少しの時間でもおしんで勉強している」ということだそうです。やはり城中生はガリ勉が多いのでしょうか。女子の最高も、「ガリ勉」、そして「明朗」「利己主義」「噂好き」「理屈っぽい」と並びます。ここで目立つのは、明朗が、二番めにくいこんでいることです。そうです。中学生は明朗であるべきです。しかし、男女ともやっぱり「ガリ勉」が一番多いようです。

三年間の城中生活で生まれた人間は、噂好きの理屈っぽいガリ勉。という結果ができました。

では、総まとめとして、全学年を通してではどうでしょうか。最高の数字を求めたのは、「体力、根性などが欠ける」次に「ガリ勉」「何事にも無関心」「理屈っぽい」「野生味に欠ける」と続きます。やっぱり討論会の意見とびつたり一致します。アンケート、討論会の結果からの城中人間は、体力、根性などが欠け、野生味に欠ける代表的な都会っ子で、理屈っぽい、何事にも無関心なガリ勉タイプ。ということになります。しかし、私は、いろいろな友だち、一年から三年までさまざまな人と一応接触してみても、城中生はけっこう、こんな人間ばかりではありません。みなさん、まわりの友だちを見まわしてごらん下さい。みんな愉快に笑っているでしょう。騒いでいるでしょう。もちろん、勉強ばかりしている人も、三年生ともなれば多少はいるでしょう。しかし、マンガを読んでいるみんなの楽しそうな顔を見たことがあるでしょう。授業中、ダジャレを言つて、みんなを笑わす愉快な仲間があるでしょう。

城中生は、一少々理屈っぽい、一部のガリ勉タイプを除いては、噂好きの明朗な都会っ子で、愉快な仲間の集まりだと思います。た

だもう少し、実行力を持つように。また、責任感を養うことも必要だと思えます。みなさん、もう一度、自分自身を振り返り、よく考えてみてください。そして、すばらしい城中生に、最適な中学生になろうではありませんか。

## 城中生とはどんな人間か

二の十二 平 松 由 江

「城中生はどんな人間か」と、いわれても、千七百人もの人間の性格などわかりません。そこで一年の時のクラスと二年のクラスとを比べてみましょう。

一年生の時のクラスと二年生の時のクラスの共通点は、まず第一にまとまりがないということです。バレーボール大会をはじめ、水泳大会、運動会など、さまざまな行事が行なわれましたが、一回としてチームワークで勝ったことはありませんでした。どちらかというと、個人のまれにみる実力で勝った方が多かったのです。つまり、クラスの中に利己主義な子がいるのです。自分の思ったことを、やらなければ気がすまない、ある面ではいいことかもしれません。しかし、団体競技ともなれば、利己主義など、もってのほかです。

第二にあげられるのは、学活を大事にしない点にあると思えます。学活は、ある方面から見ると、つまらないものだとしかいえないでしょう。けれども、それを裏返して考えてみると、学活は自分たちが、考えていることを自由に発言でき、自分たちで決めたいことが決められる、とてもよい時間だと思うのです。時々、活発な学活になることがあります。それはいつも、決められた一部のの人たちだ

け……あとの人は、万一当てられても「同じです」とか、「思案中です」とか、言っただけで済ませます。これではいけないと思えます。学活なんて決めようと思えば、自分たちに有利なことだって決められます。

例えば、週一回の道徳の時間は、先生の小言をぐたくた聞くより、外で運動した方がいいと考えるのなら、それを出せばいいのです。こんな意見を出したら、百パーセント可決まちがいなしです。それに、持ってきた遊び道具があったら、それを学活の時に、議題として出し、先生にたのめばいいのです。学校の規則は、一から十まで私たち生徒を、押えつけているわけではありません。ある程度、私たちが規則を変えていく方法もあるのです。

第三に、城中生は、人情がうすいということです。これは、城中だけでなく、世間一般にいえることです。友情年賀はがきだの、仲良し年賀はがきだの、古切手だの、いろいろなもの売り出されたり、集められたりするものが、総生徒数に比べたら少なすぎます。赤い羽根、白い羽根などに、協力するのがあたりまえになっているのですが、人が救われるものなら、進んで参加しなければいけないと思えます。

第四に、親しみやすいことです。どのクラスに行っても、おおい出したりしないで、すぐ話しかけてくれます。知らない人と話しても、なぜか前からの友達みたいな感じがします。すてきなことだと思えます。それに、一年前の友だちとも前と同じように話せる、こんな親しみやすい感じを、持っているのではないのでしょうか？ですから、先生に「他の教室へ入るな」と、いわれても自然にからだが、いつてしまうのです。

第五に、どこにも笑いがあるということです。授業中、特に放課など、教室や運動場には、笑いがいっぱいです。笑うと心がすっきりするし、楽しくなります。陰気に学校生活を送るより、陽気に送った方が、いいのはあたりまえでしょう。

以上が城中生の生徒たちのほんの一部の事ですが、私が、二年間この城中にいて、感じ、思ったことです。

## 城中生をどう思うか

二の一 岩間 由美子

体育文化祭の弁論大会の時に、「城中予備校」と、いう城中のニック・ネームについての弁論が、ありました。城中予備校！でも、私の感じる城中のふん囲気には、そのようなニック・ネームから、感じられる重々しさ、きびしさはないように思います。私は、まだ城中のほんの一部しか知らないのですし、二年生ですから、それほど、勉強におられることも、ありません。だから、本当のことははっきり、わかっていないかもしれませんが……。

一年生と接する機会、これは校舎が違うということもあって、あまりチャンスがありません。でも、放課や朝礼のときなど、見てみると男子より、女子の方が強いようですが、それでも、仲良く、伸び伸びとしたふん囲気、活発さが感じられます。また、時々、は、生意気だったり、すごく幼稚なことをやったり、いろいろです。

二年生は：私は、二年生ですからいちばん、良くわかっているつもりです。少なくとも、私のクラスは、とてもユーモアがあって、楽しいし、自由な感じですよ。他のクラスだって、きっと、そうだと思います。

す。

きょう、ある先生が、七・八年前の城中にすごい不良がいたということ、話を話して下さいました。その不良というのは、授業を平気でさぼって、校舎裏で、おしゃべりしていたり、たばこを吸ったりして、ふつうではちょっと考えられないような中学生だったそうです。それが、女生徒というのですから……そして、そのあと、その不良がいた七・八年前の城中のふん囲気と、今の二年生、特に女子のふん囲気が似ているということも、おっしゃいました。だから、もつと規則正しくしっかりやるように、とのことでしたが。私は、そのようなことをいわれて、どう考えたらいいのか、よくわからないのですが、あまり喜ばしいことではありません。朝礼や、なわとび運動の時集まるのが遅い、団体行動をとる場合やかましい、遅刻が多い、授業と放課の区別がつかない、など、ふだんよく、先生に注意されることが守られないのは、城中生である私たち一人一人の責任感が足りないのです。この点を努力すれば二年生は伸び伸びとしているが、規律も正しいといわれるようになると思います。

私の知っている三年生の人たちは、みんなユーモアがあって、おもしろい人ばかりです。だから三年生が、テスト、テストの連続で必死に勉強しているということ、そして来年は、私たちがその立場におかれるのだということ、そんなに、身にしみて感じられません。でも、三年生の教室の後ろに、はってある年間計画表を見ると、そんなのきなことは言ってられない気がします。三年生の人たちは、その計画の中で、クラブに参加したり、友だちどうしの話し合いをしたりして、一時もむだにせずに暮らしているのだと思います。いちがいに

城中生といっても、いろいろな立場にある私たちですが、それぞれに自分の考えを持ち、いろいろな経験をしているのだと思います。

城中生をどう思うか 明るいふん囲気、活発さ、それをもちあわせたり種、それが城中生だと思います。

## 一〇六 佐野雅信

城中生をどう思うか、と聞かれても、まだ城山中学校へきてから、まもないので、どういうふうだということ、まだわかりません。がこの半年の間に見てきたかぎりのことをいいます。と

小学生時代から、いろいろ想像した中学校とは、ちよつと、ちがいました。それというのも、城中生というものが少し、ようち的な生徒だと思つたからであります。テレビのマンガにでてくるような番長というしゃれたものもなく、聞くといつたら、教育ママで押されている生徒ばかりである。そのため、学校には、いくつかのクラブがありますが、運動クラブに参加するものも少なく、たまたま、そのクラブにはいつているということ、今まで、一度もクラブに参加したことのないということ、今まで、一度もクラブに参加したことはない、頭でっかちであるといわれると思います。

一年生を見ても、朝のホームルームの時間でも、総務が中心となつて、組全体を良くしようと思つているのに、一部では、まだ外で遊んでいたり、廊下でしゃべっていたりして、少しも、組全体を良くしようとは思つていません。が、良くしようと思つている点も見られます。それは、一人がこまつていると、その友だちなどが協力して、助けてくれるということがあります。これは、一・二・三年でもいえ、城中

生の利点であると思います。

つぎに二年は、というのと、だらしないように感じます。そのだらしないようすでも、一けん、いろいろな経験をしているのだなどいうことも思います。が、やはり、もっと、活発に、いろいろな立場に立って、もっと深く城中というものについて、考えてもらいたいと思つていました。

やはり、城中生といっても、単なる、一匹の動物にすぎないのです。まして、その一匹の動物が集まってきた集団を城中の生徒といつては、いけません。城中の生徒といふものは、一人一人顔もちがいで、考えていることもさまざまです。その一人一人が考えていることが、あまりにも、おぼつちやんすぎるのです。が、全部が全部そうであるわけではありません。中には、まがつたことのきらいな、城中というものについて、ほんとうに、感心を持って考えている人もいます。その人のような人がほんとうの、城中生というものであると思います。その生徒会にも活発に意見を出し、自分で城中というものを、良くしようと思つている人が真の城中生です。しかし、今の城中というものを、見ていて考えると、今の状態が良いと思つてます。

この城中という学校が、ようちといわれても、城中生一人一人が、自分の考えを持ち、いろいろな、ことを経験し、養つているのだというからです。

城中生とは——明るく、集団的、少しようち的、頭でっかち、そのような人間が城中生。



## 城中及び現教育体制に対する

### 生徒の意見

#### (A) ある生徒の意見

#### 体制と教育

資本制日本百年の歴史を背景に、高度成長終焉後日本社会の全面的な再編過程の一環として、教育の国家統制が進められている。それは、治安維持法の大学版とでもいうべきファッショの大学立法成立と共に帝國主義の牙をあらわにし、戦後民主主義の神話は、完全に崩壊してしまつた。

教育は「体制のための教育」と化し、我々は体制の歯車を作る、原料でしかない。体制の歯車は、細分化された知識と権力に従順であることを要求される。そして、体制をより強固に維持させるには差別教育が不可欠なものとなる。現在行なわれている、能力主義教育の目的は、生徒の格差づけ——高級官僚、官理職、研究者、技術者、つまり専門知識のみを持った権力中枢を担う有能な人材の養成と、労働者の大量生産を行なう——も通じて、より効率よく体制の歯車を作りだすことにある。

今日、大多数の者は、歯車の中核にならうと目の色を変えている。受験体制の中では、試験でより多くの点数を取ったものが優れたものとされ、それによって人間の価値までが決められてしまう。したがっ

て、誰もが他人より一点でも多くの点数を取ることに明けくれ、知識のつめ込みだけに精を出す。試験の点数が悪い者は、たえず劣等感にさいなまれ、エリートなるものへのひけめから、自由な行動ができない状態に追い込まれる。そして、優越感と劣等感とのからみ合いは、早くも支配者と被支配者の微妙な関係を生む。ここに権力者の意図することが潜んでいる。

また、最近、受験競争の激化を緩和しようとの考えから、内申書重視の方針がとられ始めているが、体制に従順な人間を生むばかりで、矛盾の解決には何ら効果をあげていない。人格評価及び行動の記録なるものは、師弟関係の弱みを巧みに利用したものであり、生徒を、身動きのできない状況に追い込んでいく。

そして、生徒の自治活動を目的とするはずの生徒会は、政治的偽装生活をしない者のための訓練センターとして存在し、はっきりした主義主張を持ち、誠実で感受性に富む、生徒の側からのイニシアティブを旺えつける。彼らは、生徒会の自治などという神話に酔いしれているが、それが教育の一環として行なわれる限り、自治などあり得ない。所詮は職員会議の下で踊らされている人形に過ぎないのだ。これこそ自主的な活動が、「体制のための教育」として行なわれるために生まれた悲喜劇である。

かくて、画一的な思考のもとに統一された人間は、退廃した体制内に埋没していく。彼らは、「わずかな成功に満足し、高望みして危険を冒すことはない」式の非理想主義的考え方に甘んじて、プチ・ブルジョワの平和が乱されることを極度に恐れる。それゆえ、社会の既成概念からはずれることを極度に嫌い、権威主義に、徹してしまうの

である。

我々は気づく。社会の一員となるためには、節をすてて、しばしば妥協しなければならぬことを。体制の一員となるには、自分の持っている、最も創造的な衝動をおし殺さねばならぬことを。教育は、鋭い角の取れた円満な人格を作り上げるための条件を、すべて備えている。

ピラミッド型に積みあげられた教育体制の頂点に位置する大学の欺瞞性は、眼覚めたる若者たちによって暴露されたが、体制の矛盾が渦巻く今日に於て腐敗の根は深い。教育の国家統制は、産官協同、検定教科書の反動化、等々を通じて加速度的に進められ、やがて、我々の手のとどかない所で教育が語られる日が来るかもしれない。

(三年 A君の意見)

「名門校」ということばに対して

九月にはいつてから、学年代表の人に、「城中又は、現教育体制に對する生徒の意見として書いてくれ。」と、いわれたのですが、私はあいにく意見といえるようなものをもっていません。それで、世間の人々が「城中は名門校だ。」と云ってくれますが、そのことばに対して思っていることを書いておきます。

城中といえは名門校

城中といえは生徒数の多い学校

城中といえは進学率の高い学校

城中といえは体育館の大きな学校

城中といえは体育文化祭が二日にわたって行なわれる学校

城中について思いあたることを書いてみたらこのようになります。

でも私の書いたことは実際の30%ぐらいのことだと思えます。マア、そんなことはともかく、私たちの学校、城山中学校が、名門校といわれる陰には何があるでしょうか。

まず第一に、おおかた様方や先生方の教育熱心なこと。第二に、先輩たちが築きあげた「名門校」ということば。第三に、私たち生徒が、「名門校」というレールに乗っかっていること。

私には、この「名門校」ということばが余分なものに思えてなりません。「なぜ？」って、だって城中の名門校とは努力の上でのことでしょ。精神や道徳的に優れた生徒が多いから世間の人々が、「名門校だ。」といってくるのではないでしょう。それに私は勉強が嫌いなんです。「勉強が嫌いなら、しなればいいじゃない。」って、私もそう思うには思うんです。だけどやっぱり私もみんなと同じことなんです。「名門校」というレールの上から一人、おける勇気がないんですから。アッそうそう「嫌い」という表現はちょっと違うかな。どちらかというところ「やる気がしない」といった感じ。まわりの人から、押しつけられればやりたくなくなります。それに先生方の中にも成績の優秀な生徒は精神的にも良い生徒だと思っていられる先生がおられるような気がしますが、どうでしょう。私は成績が優秀なだけなら良い生徒とはいえないと思えますけれど……。

何か他人のことか、自分のことかわからないようなことを並べてしまいました。しかし、現在のままの私たち城中生では、世間の人々が城中に与えてくれた「名門校」ということばを、学力優秀な学校でおわせてしまいそうです。どうせ「名門校」といわれるなら、精神面や道徳的にもすぐれた学校にしようとは思いませんか？先輩たちが

築きあげてくれた地位を捨てる必要はないと思います。ただ先輩たちが努力して引いてくれた「名門校」というレールをより安全にするこ  
とが必要なはずです。

私の考え方に賛成の人、今すぐ、レールをより安全にするための、  
一本の枕木になってくれませんか？ 私自身も城中生の一人として、  
レールをより安全なものにするために、努力していきたいと思ってい  
ます。  
(三年 美女M子の意見)

② アンケートの結果

二年生のある三クラスに次のようなアンケートをした。

- 1 受験について  
 その1 内申書重視についてどう思うか？  
 賛成 反対 その理由  
 その2 補習授業について  
 賛成 反対 その理由  
 その3 入試が5教科になったことについて  
 賛成 反対 その理由  
 2 城中について  
 その1 城中のテストはむずかしいと思うか  
 思う 思わない  
 その2 現在の城中に対してのぞむこと  
 (勉強面について)

アンケートの参加人数は、計 135 人だった。

1 受験について

その1 賛成 45名  
 反対 76名  
 無効 14名

理由 (理由のかいてない人は入れてありません)

理由	賛成	反対
入試だけではあてにならない	13	8
入試でミスしても内申書でたすかる	5	8
その他	15	12
自分がわるいから	8	15
内申書がないとふだん安心	15	8
その他	13	12

この問題は自分の成績によって、意見がわかれたようだ。賛成は、成績のよい人で「内申書があるとたすかる。」といった意見が多い。

反対者は、自分の成績に自信がない人で、今はわるくてもいつかた  
ちなおり、よい学校へはいろいろとする人や、入試だけがらばり、万  
に一つの可能性でも求めているような人もいるようだ。又、中には、  
重視するのは反対だが参考だけならいいという人もいた。

その2 賛成 73名  
 反対 48名  
 無効 14名

賛成	賛
学力がつく	16
先生にわからないことをきける	12
入試のためになる	4
自信がつく	3

反	対		
その他	家ではさぼるが学校ならできる	5	10
	自由時間がなくなる	15	
	不必要だ!	6	
	自分で自分にあつた勉強をしたい	4	
その他		7	

この問題は、人によってさまざまな意見が出された。これは前の問題とちがつて自分の性格にあつた意見が出されたようだ。たとえば、賛成に「家ではさぼるが学校ならやれる。」といった意見があれば、反対に「自分自分にあつた勉強法でやつた方がいい。」といった対立する意見がある。又「自由時間がへる。」というのんきな人が以外に多かつた。

理由

反	対	賛	成
内申書も九教科だから入試も九教科	五教科がにがて もっとへらしてほしい	その他	四教科は苦手だから 九教科もあるより楽で、又五教科の方が勉強しやすいので 四教科はあまり必要ない
9	14	8	7
		25	4

その3

賛成 76名  
反対 55名  
無効 4名

その他	にしてほしい
8	3

この問題は問題に対しての考え方のちがいがから意見がわかれたようだ。それは、賛成で「九教科からへつたのでよい。」という意見があれば、五教科だけを考へて、「多いからもっとへらせ。」という意見が出ている。又チョッと考へて書いてくれた人に、「四教科は実技点もはいつた内申書があるからよい。」という意見があつた。しかし、中には「ついでに閉語をとれ。」などという自分かつてなことをかいたり、あげくのはては「入試をなくせ。」「高校も義務教育にしろ。」といったような(テスト反対主義)の意見が多かつた。

2 城中について

その1

思う 85名  
思わない 30名  
無効 20名

これは、問題にミスがあつたようだ。転校生でない限り答えることはできないと思うが、それでもみんな何を基準にしたか知らないが、答えてくれた。

結果はほとんどの人が「むずかしい。」と書いてある。これはやはり世間の人のうわさか先生から聞いたことをそのままかいたのだろう。中には「ふつう」と答えた人がいるが、よほどたくさん転校している人なのだろうか。そんな人でもない限りこれほど無責任な解答はない。これは、理由を聞かなかつたので、何がむずかしいかということのはっきりしないのが残念だが、全員が「自分の能力に対して適当か

どうか？」というように考えて解答したならば、学校側ももう一度考え直す必要があるのではないだろうか？。

### その3

城中に対して（勉強面で）望むこと。

生徒の意見によって次のようにわけてみた。

- |    |                       |   |
|----|-----------------------|---|
| 1. | テストについて望むこと。          | 8 |
|    | テスト回数を少なくしてほしい        | 2 |
|    | テストをなくしてほしい           | 3 |
|    | テストをかんたんにしてほしい        | 4 |
|    | テストの問題数をへらしてほしい       | 1 |
| 2. | テスト前の一週間もクラブをさせてほしい   | 2 |
|    | 先生自身に対して望むこと。         | 2 |
|    | 先生がインテリクさっているのでやめてほしい | 5 |
|    | ブツブツいわないで自由に勉強させてほしい  | 4 |
|    | 先生に対し質問をしやすくしてほしい     | 2 |
|    | もう少し余談も入れてほしい         | 3 |
| 3. | その他学校に対して望むこと。        | 2 |
|    | 勉強時間をへらしてほしい（もう少し余裕を） | 3 |
|    | 宿題の出し方をもう少し考えてほしい     | 2 |

いろいろ出たが望みがある限り満足していかないのである。しかしこの希望も無理な所は非常にたくさんある。が、すぐに直すことができず問題も少なくない。早くこの理想の学校、理想の先生に一步でも、

近づいてほしいものだ。

この問題にとりこんでみて………。

アンケートなどをしてみて、みんななにかやっているけれど、すぐに解決できるような問題もたくさんある。しかしこの学校でも同じことだろう。人間が一生に一度は歩かなければならない道だ。もし今の教育体制がまちがっているならば、我々の子供がこのようなことを味わうことがなくなるように一日も早く立ち上がらなければならぬと思う。

最後に一言云わせてもらいたい。それは、みなさんがアンケートに答える時「どうせ答えたってどうもなりやしない。」という考えをすててまじめにとりこんでほしい。今度のアンケートの結果を見ても無効が非常に多い。これはみんなふざけた解答です。

又それぞれの理由も「かかなくてもいい。」といわれても、なるべくかいてほしい。私たちはそれによってよりくわしい意見がわかるのだから、これからはアンケートなどにマジメにとりこんで下さい。

### §3 先生と生徒

あれは、初夏のさわやかな日のことでした。編集員長のまづい顔を見ながら、特集の題をみんな考えていました。特集をやるにあたっていくつかのグループに分けましたが、結局我々のグループは、「先生と生徒」というとてつもなくでつかい題にぶつかりました。

どういうわけか、ハレンチなメンバーがそろい、先が思いやられましたが、みんなの意見を聞くと、今の断絶等とさわがれている、教師と、学生の実態をエグロウじやないかとか、これから教育体制や教育問題の根本にまで、発展させようではないかとかいうことで、大変たのもしく思ったしだいです。

では、その「先生と生徒」という所から話を始めましょう。

この特集の根本は、みなさんごぞんじのように「城中生」をさぐることにあります。そこで、今城中の中での一番大きな問題は、ということであるいろいろ話し合った結果、この「先生と生徒」というシロモノが出てきたわけです。

あなたも事実先生とは授業中だけの結びつきしかない、とか、もっと生徒への理解がほしい。もっと会話の時間があつたらなどと思つたおぼえがあるでしょう。

なぜ我々が、そんなことを感じなくてはならないのか、どうしたらそんなことがなくなるか、それをあなたと一緒に考えていこうと思つたのです。

これで、この題の意義がわかったと思います。おっと、こんなものと思つて本を閉じないで下さいよ。これからがとて重要、あなたの

生き方にもかかわるかもしれないから。

ではまず、先生というものは、一体どういう物なのか、その辺から考えてみましょう。

あなたは先生とは、いったいどういうものだと思つていませんか。

せんせい【先生】教師、医者など、学識のある、指導的立場にある人。またそういう人、自分が師事する人に対する敬称。 親しみやさげすみを含んだ呼びかけにも使う。

一 岩波国語辞典より

しかし先生とは、ただ知識を生徒に教えるだけでしょうか。そんなはずは、ありません。それはティーチングマシンのと比較でおわかりでしょう。

少なくとも私立の学校にくらいならもっとティーチングマシンの普及があつてもいいはずですよ。もし、知識という物を、生徒に教える（つめこむ）だけなら、ティーチングマシンの方が上だと言つてもいいくらいですから。しかし、まだまだ先生とは学校になくはならない存在とされています。

では、知識以外にも何を教えるのでしょうか。

それは、「人間教育」だと思ひます。

今のこの世界で一番必要だと思われる、人間教育だと思つたのです。

そして、その人間（生徒自身）を形成してゆくために、学問等があると思つたのです。

しかし、今の状態でそれが、どれだけなされているか、それも後の項で、考えていこうと思ひます。

結論としては、先生とは学校教育の場において、生徒の人間教育を

するために、学科を教え、及び生活面においてもよき指導して、一人の人間として次の過程へ送り出すものではないでしょうか。

では次に、私たち自身、すなわち「生徒」というものについて、考えてみましょう。

せいと【生徒】 学校（特に中学、高等学校）で教えを受ける者

—しつこく岩波国語辞典より

いったい我々とは、何でしょうか。

もっとも自分自身というものが、はっきりわかっているならば、それはその人の人間形成が、すでになされている。ということだと思えます。

ですから、われわれ自身ではつきり言い切れることは、むしろ無理だと思えます。

しかし、だいたいでどのようものか、考えてみましょう。

何もしないでみんなの言うことをみんな聞いている者。

わいわい言うだけで、行動を起こさぬ者。

勉強のことしか考えないガリ勉。

クラブがなくなったら、学校でやることなくなる者。

生徒会ということばも知らない者。

これらすべて生徒ではない、と言いきることはできません。

しかし、学校で何もせぬ者は、名ばかりの生徒で、それは本当の生徒の姿ではないでしょう。

この点から考えると、生徒はなすべきこと（ある時には勉強、ある時にはSPORTS）をやり、自分というものを、自分でつくり出して行こうとするものが、本物ではないでしょうか。

ところで、今現在の城山中学校において、前にのべた先生の定義、それから、今のべた生徒の定義をあてはめてみて、はたしてうまくあうでしょうか。

教育体制の問題も多分にあるでしょう。

そのところを考えてみましょう。

今、我々の学校では、受験というものが、あまりにも大きなウェイトを占めているとは思いませんか。

そして、そのためにほんとうの思考や、人間形成が成されず、ただ知識の暗記ということだけになっているとは思いませんか。

すなわち、先生、生徒、教育体制の相互積任の中に、学校教育の問題があると思うのです。

だれかが言いました。「我々は、レールの上をただ黙々と走る電車だ。」と。ほんとうの生徒の定義に近づくには、もっと自己の追求が、必要だと思いませんか。

もちろん考えるだけではなく行動に移してみましょう。

これだけ読んで、あなたの役に少しでもたてば、我々はたいへんなカンゲキです。そして、生徒会誌のちががあったということでしょう。

そしてこれから、先生から見た生徒との対話の場、生徒から見た先生。先生と生徒の理想的な関係へと、発展させていきます。

必ず読んでネ。

ではまず最初に生徒から見た先生の理想的タイプというのを調査してみました。

このアンケートはもちろん、生徒の単なる考えにすぎませんが、もしこれが先生の現状に対する切実な願いからきているのなら、そこにはいささか考えの不足があると思います。先生も人間である以上、感情の動物であるから、時にはヒステリックにカッとすることもあろうでしょう。そして、先生としては意識的に行なっているではありませんが、生徒から見た場合、特定の生徒をひいきしているように見えることもあるでしょう。が、特に思想などの違いがない場合、どの先生でも長く接していれば、本当の暖い気持ちがかかると思います。話し合いの場を設けることも一つの方法だが、授業時以外で、一緒にスポーツや音楽を楽しんだりできたら、またそこから何か得るものがあるでしょう。また、先生と映画など娯楽の話をしたり、先生が、かつてスポーツなどに活躍した話を聞かされると、そこでまた、先生との楽しい思い出が作られると思います。結局、以上のような事が出来るタイプ十ときにはきびしいというのが、生徒に最も好かれる先生でしょう。しかし、もっと広い意見で考えてみると、人間だれにでもある美点、その美点を早く見つけてくれ、それを伸ばしてくれる先生が、一番良い先生ではないでしょうか。が、どんなに良い先生がついていても、「努力せずに出世する法」はないということをお忘れなく。

ところで、ここで一つ問題になるのは先生と接する場(または対話の場)であります。もちろん、充分あるに越したことはない。私の述べた理想の先生が可能になるわけだから。がいったい現状はどうなのでしょう。それを次の項であつかってみましょう。

### 数クラスのアンケートによる結果

あなたはどんな先生が好きですか？	あなたはどんな先生がきらいですか？
<ul style="list-style-type: none"><li>ユーモアときびしさややさしさのある先生</li><li>話しやすい先生</li><li>生徒のことをよく理解してくださる先生</li><li>生徒の気持ちになって考えてくださる先生</li><li>おもしろくてわかりやすく勉強を教えてくださいださる先生</li><li>生徒がこまっている時、相談ののってくれる先生</li><li>責任感のある生徒を信用してくださる先生</li><li>生徒を差別(ひいき)しない先生</li><li>短気でなくおおらかで、けじめのある先生</li><li>みんなの尊敬を集めるような先生</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ヒステリックでエゴイストな先生</li><li>おこってばかりで、またおこるときも理由も聞かずに暴力をふるう先生</li><li>ひいきをしたり、すぐに名前をあげる先生</li><li>自分の機嫌によって、授業がかわる先生</li><li>神経質な先生</li><li>まじめでじょうだん1つ言わない先生</li><li>生徒を信用せず、バカにする先生</li><li>1つのことをくどくど言う先生</li><li>無責任で自分の役目はたしてくださらない先生</li><li>ことばつかいのあらい先生</li></ul>



## 数人の先生にインタビューした結果

先生、生徒間に対話が少ないということについて

- 生徒の立場としては、年齢のギャップ、遠慮があるからでは？
- 先生の立場としては、指導研究などの雑用が多くその機会が少なくなる。
- 先生側に責任 → 先生には余裕がない。生徒の立場にたつことと、やはりもっと対話の場をふやすことが必要。
- 対話の場をふやすには大賛成→今からでも求められる。双方に努力がなされていない。
- 教科以外の質問を特に面接に設けた時間以外で話したい。
- 生徒から相談をもってきてくれば、いつでも相談にのる。  
今相談に来る生徒は少ないが、卒業してから何か問題にぶつかったと相談に来る卒業生はいる。
- 生徒に質問されやすい、相談されやすい先生でありたいし、先生の言うことを素直に受け入れられる生徒であってほしい。
- 対話が少ないため→先生、生徒間には何か心の通ずるものがあるはずだが、お互いに通じないで終わる場合がある。心と心のふれあいが少なくなっている。
- 生徒が対話を求めていることがどこでわかるか。

先生方の私達に対する考え方を見るつもりで、数人の先生に「先生と生徒間の対話が少ないということについてどうお考えですか。」と質問してみました。

上表がその結果ですが、ほとんどの場合、先生は、まるで正義の味方のように、どんどんふやそうという意図が、見られます。

中には、先生側に責任があるなどと、少々タレクサイようなものまであります。

それはさておき、あなたも「先生との対話が少ない」ということは実際問題として、痛切に感じているでしょう。そして、その事についていろいろと考えて下さった人も多いでしょう。もし考えたこともなかったら、今考えてみて下さい。

では、あなたの考えた事と、上の表とを比べてみてください。

もちろん、このひとつの間だけでは、はっきりわかる訳がありません。しかし、もしあなたの考えと、上の表が一致していたら、あなたはこの問題だけでも、先生達と同じ考えを持っていると言うことになるでしょう。

一緒に考えとは、いったいどういうことでしょうか。

そしてもし考えが異なっていた場合、それはいったいどういうことでしょうか。

年齢の差からでしょうか。体制のみずみでしょうか。

ここで結論を出すのはやめましょう。

この後の方まで読めば、自然にあなた自身の考えが、生まれるでしょう。

最後になぜ先生方から、このような意見が出たことも、お忘れなく

今まで先生、生徒というものについて考えてきましたが、ここで、最終的な点として、先生と生徒の理想的な関係というものについて考えて行こうと思います。

そこで、一部のクラスからの、先生と生徒の理想的な関係というアンケートをとってみました。

大体の傾向としては、もっと親しみのある関係とか、話し合う機会が多い関係等でした。これを大体の生徒が望む関係と置いていいでしょう。

我々がアンケートを取った時の予想との比較も、大体一致していましたが、主従関係というのは、解せませんでした。

まあ、それは、ともかくとして、この結果と、今の状態を比較してみましよう。

現状としては、話し合いの場が少ないと思う。たまに先生と話すようなことがあっても、その内容がただ勉強の質問であつたりで、あまり親しみがわき出てくるようなこともないでしょう。

しかし、まったく親しみがなくなってしまうわけではない。授業時以外の生徒と先生の会話一つをとってみると、そこにはほほえましい親しみがわき出ているのではないだろうか。

現状とピットタンコとは、言いませんが、それほど遠くはないと思います。

そしてもし理想とかけはなれていたら、これから、理想までもっていくのは、不可能に近いでしょう。

しかし、あくまで先生と生徒の関係ということは、どうでしょうか。

## 生徒から見た理想的な関係

• 友達のような関係	12%
• 何事でも相談でき打ち明けられる関係	7%
• 気軽に話し合える関係	6%
• あくまで先生と生徒の関係	6%
• 自由に話し合う関係	5%
• 理解しあう関係	4%
• 学校での親のような関係	4%
• 主従関係	4%
• 信頼しあうこと	3%
• 他人	2%
• 規律があり又親しみやすい関係	2%
• なし及びわからない	27%
• その他	6%

その他の例

- 三角関係
- でかんしょをしっしょに歌うような仲
- けんか仲間
- 以下省略

対照学年

各学年4クラスづつ

次に、先生から見た生徒との理想的な関係について考えて見ましよう。

数人の先生からのインタビューを下のような表にまとめてみました。

これも、大体は、もっと親密な関係を望んでいるようです。ただし生徒と先生というわくの中でのことです。

このような関係は夢であり理想なのです。つまり、ある規律の上でということでしょう。そのために授業時以外の会話の場を求めているということは、前の方の項でも先生方の意見として載せました。

しかし、実際問題としては、行事や、雑用の過多、待ちかまえる受験等で、なかなかできないという意見もあったようです。

とにかくここで一番大切なのは、先生方の思う理想と我々の理想とがあまり違わないということです。すなわち、世によく言われる「断絶」どころか、ここには、りっぱな「思想上の共通点」が表わされたわけです。今までアンケートの結果として載せたことが、本当に、生徒全体に、先生全体に思われていることなら、少しぐらいの無理が生じて当然実行できることですし、実行するべきだと思おうのですが：

## 先生から見た生徒との理想的関係

※これは数人の先生へのインタビューからです。

- 心が通じ合うのが理想だが、友人関係とは異なる。
- 先生、生徒間には愛情が必要だが、親子の愛や、友情とは異なる。
- 人間的信頼で結ばれるのが、もっとも理想的だと思う。しかし、何ごとにつけも、先に批判がたつとこのことはうすれる。
- もっといろいろな面での規律をつけて、湧きでるような親しみがほしい。
- 先生のまわりを生徒が囲み、その先生と生徒が、さらに、生徒同士が、強い糸で結ばれているような関係が理想。
- 生徒が質問、あるいは相談しやすい先生。そして、先生の言うことをすなおに受け入れる生徒という関係が理想。
- 授業が終わると絶たれてしまうような関係ではいけない。だから授業時以外では対話の場が得られるとよい。

## 結 論

最後に、この章の結論をのべましょう。

先生と生徒というものは、城山中学校において、まあまあうまくいっているでしょう。

しかし、そこには今までにのべてきたように、多種多様な問題があります。それを解決していくには、もっと互いに相手の立場と、今どんな状態にあるかを、認識し理解する必要があると思います。

そして、それを何らかの形で、行動に移す必要があると思います。今、ある者はこれに対して、無関心にひとごとのような表情をします。

しかし、実際には我々自身の問題なので、もっとよく考えて行動しようではありませんか。

たまには、暴走もあるでしょう。

しかし、それを考えて何もしないことこそばかっています。

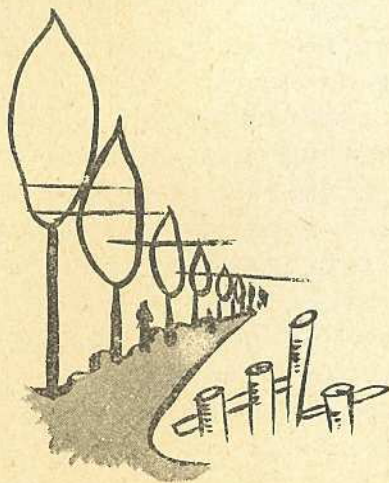
我々自身が解決していかなくて、いったいだれがやってくれるというのですか。

文中いろいろとわりきれないこともあったかと思いますが、これで結論とします。

この章をここまで読んで下さってたいへん感謝します。

なおこの章の作製に協力して下さったかたがた、ならびにインタビ

ューに協力して下さった先生、アンケートに協力して下さった生徒諸君に感謝します。



## 城中生の考え方と行動

近ごろよくこういふことばを先生方あるいはおとなの人たちの間で  
きかれる。「このごろの生徒は口ばかりたっしやになって自分の行な  
うことと言ふことがまちまちである。おとなや先生を批評するにして  
も批評する内容を根本から知っているのか。上べだけ知ってそれを実  
行というかたちにもっていくのでなく口で言うだけだ。口でペラペラ  
言うよりもっと勉強しろ。」というようなことである。城中生もそ  
の中に多数含まれるのではないかと思う。

例をとってみよう。まず生徒会にどれだけの関心があるかだが、わ  
れわれのどつたアンケートをもとに見てみよう。まず生徒会を傍  
聴したことのある人が何人いるか。これは生徒会に出ている人は知っ  
ているだろうが傍聴者はいたらよいほうだ。ほとんどいないといつて  
もよいほどだ。アンケートで生徒議会に出たことのある人を見ると22  
%となっている。数字的に見ればクラスの五分の一だが、これは一度  
でも出たことのある人の数であるつまり議員として出席した人もはい  
っている。であるから3年生の人たちではいままで三年間に総務や学  
年代表になるチャンスが6回(三年間×二期(前期と後期))ある。  
それがクラスで必ず二人以上(学年代表がいるクラスは三人)いるわ  
けである。2人×6回は12である。これはのべ人数であるが、これだ  
けでクラスの四分の一なのである。つまり傍聴者の人数はと聞くとク  
ラスに二人多くても四人までである。ひどいところになると0とい  
うかなしい数字のクラスもある。なぜ傍聴しないのかと聞くと「総務  
が日・且で発表する」だとか「議事録を読めばわかる」などといつて

いる。それではその議事の内容を知っているかと聞くと「ええと、ち  
よっとまてよ。」「忘れちゃった。」などと言ふことが聞かれる。こん  
な状態では生徒と生徒会との密接化などはいくら役員が六人団結して  
もできるものではない。せめて生徒会で決まったことぐらひはすぐに  
頭にかんでできてもらいたいものだ。わりやり傍聴しろとはいわない。  
土曜日の午後、クラブにはげむのもよいだろう。遊びたい気持ちも  
あるだろう。が、しかし議員はやりたいクラブもやめ、遊びたい心を  
おさえて生徒議会に出てきているんだ。その議員が報告するときは、  
ちゃんと聞いているのが当然だ。生徒議会で決まったことを知ってい  
るのは全体のわずか12%で、知らないという人が54%、ときどき又は  
少し知っているが84%である。知らない人が54%とは多すぎる。半数  
以上がそんなことではこまってしまう。「生徒会はぼくたちの知らな  
い所でやって知らないうちに決まってしまう。」という声があるが、そ  
れこそとんだお笑いだ。生徒会は、生徒の生徒による生徒のための会  
なのである。つまり生徒のためなのである。生徒議会で決まっても、  
職員会でパアになる議題もある。だがその議題は生徒議会では生徒の  
ためによいことと信じて出しているのである。結果よりも、議員が討  
議してできあがつたんだということを重視してほしい。さてこの生徒  
議会であるがこれは生徒の中の決定機関の一つである。生徒会に意見  
は？ときくと、ないという答えが80%関係なしのものをふくめると、  
じつに88%である。その人たちはみんな満足しているのだろうか。い  
や満足しているのではなく関心がないものと思う。関心のある12%の  
人の意見を見てみると、「生徒と生徒会の密接化をもっと。」が25%、  
「生徒会で決まったことの報告を」8%、以下「もっと実行を」1内

容をはっきり」「生徒のためになるように」「生徒と直接関係あるものに」「協力をふかめる」「生徒会は生徒の前で」などあるが、おもしろい意見にこんなものがある。「演劇コンクールもやったら」という意見もあった。これらのアンケートを見ると、言うことと行動のあいまいというよりも、無関心派がひじょうに多いことを残念に思う。さて関心のある人は、と見るとこれらも口で言うにすぎない意見なのだ。生徒会に反抗しようという人もいない。それでは生徒会はどんなことをやっているか、またやってきたか、とたずねると、「そうだなあ、あゝ思い出した。バレーボール大会ってそうじゃない」と言う。考えなければ出ないものか、これはバレーボール大会実行委員という人がきめられ、その人たちが原案を作成し、生徒議会によって決められる。はたしてバレーボール大会はこういうことがあってきたんだなあということを何人の人が知っているか。実行委員が必死で作ったものが今年も無事すんではないか。このような成功したものは、だれがほめるのか。生徒会はよくやってくれたという人がいるのか。もし失敗に終わったら生徒会はなにやっとする、というようになるのだ。体育文化祭にしたらってそうである。あれだっけほとんど先生の手をかりずに、生徒がやったんだということを自覚してほしい。今年から、合唱コンクールもできた。それも生徒の手でつくられたんだということもわすれてはならない。こんな身近なこと以外にもいろいろある。身近なことは関心あるが、あまり関係のないことは自分がどたんばの立場に立ったときようやくギャーギャーいう。規約改正などがそうである。生徒総会が開かれるまでに何人の人が規約改正について知っていたらどうか。「規約改正ってなに」とか「どれとどれが改正される

の」などといったようである。「結局はそんなもの改正されたって別にどうってことないよ。はじめからそうなってたんだと思えばいいもん。会費百五〇円がかわろうとまあいいじゃないかねえ。」無関心さにもほどがある。生徒の存在価値が全くとある。生徒にとって生徒会は不要なのだろうか。少なくともそうは思いたくない。いま大学は学園の自治とかいうことを必死でいっているが、生徒会がもっと職員会と対等に近い状態にならないだろうかという意見はでず、バレーボール大会や体育文化祭も職員会にまかせればいいじゃないか、という意見が出る。もしそうすれば生徒会の必要性がなくなる。しかしなくなってもよいものだろうか。もし生徒会をなくすれば（委員会も含む）全部先生の決めた規則で、生徒の意見は繁栄しないどころかちっとも出せないのである。まあ極端な例を出してみたが、これでもよいという生徒はまあいないであろう。生徒が再認識をしてほしい。そうなればこれぞまことの生徒会活動になるだろう。総務の報告をよく聞いて、生徒会がどのようにしてどんなふうに進んでいくかを知っておいてもらいたい。生徒会を恋人のように思い生徒会に関心を持てば素晴らしい生徒会、生徒のためであったんだと思うような生徒会にしてもらいたい。そしてそこから口で言ったことは必ず実行にうつすというようにしてもらいたい。

さて、それでは城中人間とはどんなものだろう。

これは生徒会誌の主催で討論会を行なった意見である。

○温室育ちのもやし

○元気がない（やばんなところがない）。

○持久力がない。

これらの意見から頭でっかちな人間が多いのではないかと思う。

またある先生は城中生はまわりから特別な目で見られているが、他校とほとんど差がないのではないかとおっしゃってみえた。

たしかに今の城中生には自分は優秀であるという意識が多すぎるのではないかと思う。だから次のような意見もでた。

○生徒が城中にあまえずぎている。

○批判するのがすき(自分を反省しようとしなない)。

○第三者的な意見しかいわない。(他人のことだけで自分をもっと見

つめるべきだ。)

○自分が山の頂にいて、そこからまわりを見おろしている。

などである。であるから生徒会も決定事項について批判を与え、それまでの討議は無視されている。自分がどたんばの立場にたてば、そのことをいっしょうけんめいやる。しかしどたんばでない時は……

……やはり無関心である。三年生の人は中統へ行く。そのときに城中生はテストについてのことばかり話しているがほかの学校の生徒は遊んでばかりいる。こんなところにも、こせこせした感じがあらわれているのではないかと思う。もっと野望を胸にいだいてほしい。失敗や矛盾をさけたり、おそれたりしてはいけないと思う。倒れたらまた起き上がるんだ、という根性で。

さてこんどはだれもが関心をもたねばならない高校入試についてである。現在の高校入試体制、これを生徒はどう思っているか。関心を持っているのは、一・二年生には少ないようなので、三年生を中心にしていく。

○このごろはテストのことが頭からはなれられない。

○テストの一点二点にガメツクなってくる。

○内申書制度に反対。

などいろいろある。まあ城中は三年生の一年間、前半は補習もないので他の学校よりは自由があるが後半のおいこみにはまいる、と言って

いた人もいた。必死で勉強することだけが、こんなにみんなにきらわ

れているのか、いやそのほかにもある。それはまず……

○クラブができなない。

○友だちとの会話がうわべだけのものになる。

○親友がなくなる。

○クラスにまとまりがなくなる。

○物事にいやしくなる。

などである。先生方はつねに受験のことを考えろといわれる。しかしそれでいて一点や二点でこせこせするなともいわれる。

何のために勉強するのかときかれたら、現在においてはどうしても

いい高校へはいるため、と答えるといっている。高校へ入学できてもうれいという気持ちよりむなしというものだけが残るだろう。

では人間は一生何のために勉強するかときくと、未知のことを知るために勉強するんだ、とか、人間としての特権をいかすためなどといった。……三年生になると暗記一すじ、活用できないことを習って高校に合格したとき、また何のために、が出てくるのではない

か。二年生のうちはそのしい。もう一度二年生にもどりたいという。

人間は何のために生きているのか

人間は生きるために生きるべきだ。

——どんな一生であったか——

死ぬために生きている。

「どんな死に方をするか。笑って死ぬのはよいことだ。一疑問を解くことを生きがいとして生きている。」

「精一杯つくしたことの喜びを味わうために生きている。」

「などの意見である。まあ今まではちょっと説教じみたことばかりだったが、何も全員がそうなんだというのではない。」

「城中生にしたってよいところがたくさんある。まあ言うまでもないと思うがクラスの中は明るいムードがたっぷりであり、一人一人が意外にのびのび生きている。テストをのぞけば毎日楽しい生活である。」

「そして各クラブをみると、どのクラブもひじょうに強くひじょうにまとまりがあり明るいクラブである。このように城中生も人間味が豊かである。」

「それではある人の意見をいれよう。」

「城中生とはひじょうにこせこせした人間に見えるがほんとうは、明るい性格の人が多い。しかしそれがのんびりにもつながる感じがする。またガリ勉もやや多い。小さくまとまって各自に責任をもたせればひじょうに優秀であるが全体が体育館にはいればワイワイガヤガヤ、先生がどなられて、ようやくおさまるしだいである。何か責任をもたせればよくまとまるが、全員で、となるとまとまりがない。集会するとき会長がしずかにさせようとしてもちっとも静かにならない。けれどもそのうるさい人を会長にすれば、静かにするように注意するだろう。そういう全体の面のまとまりがほしい。」という意見だ。

「城中生に責任をもたせればという意見、そうすればまとまりも出てよい学校になる。勉強も運動もそして生徒会、生徒のまとまりも、」



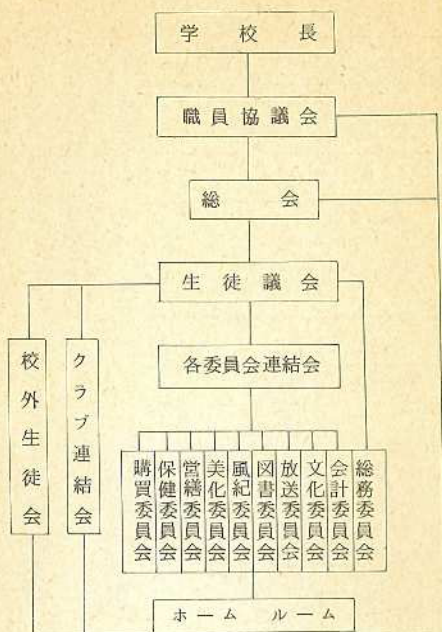
## 生徒会で決まった事について

我々、編集委員は、生徒と生徒会との結びつきを強めるために、現状をしっかりと見つける必要から、ここにアンケートを中心し、生徒会で決まった事について、のせてみました。まあ、見てくださいナノ

### 1 生徒会組織図

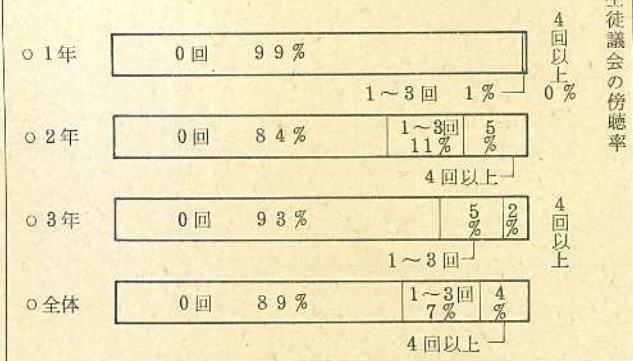
まずはじめに生徒会組織図をのせました。みんな見ていないと思われる、生徒手帳のP14の図でござる。これを見て、もう一度生徒会というものの作りを知って置いてもらいたい。

### 生徒会組織図



### 2 生徒議会の傍聴率

それでは、次に、我々の生徒会の中心となっている、生徒議会の傍聴率を見てみましょう。

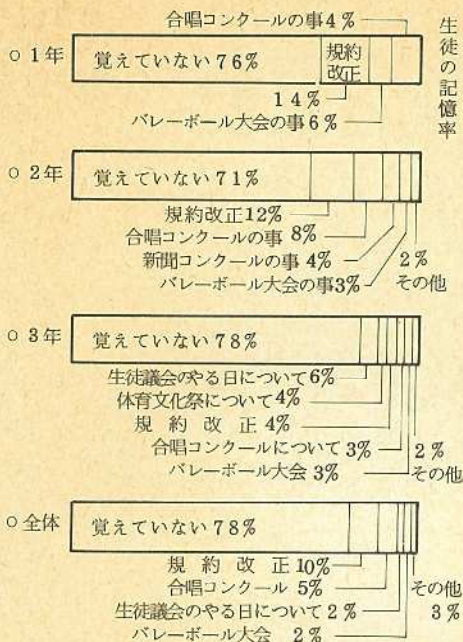


いるありますが一つあげるとまず、生徒会で決められた事が確実に生徒につたえられ、そして知られているか、というのが思いかびます。

見てわかるとおり0回があっという間に多いですね。1年の99%はちょっときびしい割合です。1年はまだ学校になれていないのだからなおのこと生徒議会にどしどし、ぼうちょうして、生徒会にせつしてもらいたいです。このような状態の今、いったい我々の生徒会で決められたり行なわれたりしていることは、しっかりと成果をはたしているのでしょうか。それは我々がもっともよくしっています。そう成果はあがっていません。ではその原因は何でしょう？ いろいろ

### 3 生徒の記憶率

「生徒会で決まった事が、どのくらい覚えられているか。」というこ  
とを調べたのがつきのグラフです。



生徒会で決められた事が、すぐわすれられたのでは、守るなんてものでは  
ありません。しかし、右のグラフの「全体」をみると、覚えていないのは、  
わづか22%である。あとの78%の人たちは覚えていないのである。これでは、  
生徒会でいろいろなことを決めても守られないのがあたりまえである。  
生徒会で決まったこと、成果をしっかりとあげるためにはまずこの問題を  
解決する必要があるのではないだろうか。

### 4 重要議題について

まえに決まった事については上で調べてみましたが、いったい今、  
生徒議会で問題になっている、重要な議題についてはどのくらい生徒  
はかんしんをもって、知っているでしょうか？それを調べたのが左の  
グラフですが、学年別にみると三年生がもっともよく知っている  
ようです。それにしても今生徒会で活やくするべき、1・2年生が28%  
や25%の人しか知らないというのは、なさけないですね。

重要議題について

○ 1年	77%	23%
○ 2年	75%	25%
○ 3年	66%	34%
○ 全体	72%	28%

知らない

知っている

ところで、まえに  
ものべたように、生  
徒議会でほんだいに  
なっている事を知っ  
ているかという事は  
生徒会でできたいろ  
いろな事を実行して  
いけるかどうか、  
大きないきょうを  
与えます。でも現状  
は、知っていない人  
のほうがあつう的  
に多いのです。それ  
ではどのようにした  
ら、この問題を解決  
することができるで

しょうか？それにはつきにあるような事について考えてみて、この問題がおこった原因を知るひつようがあります。それは

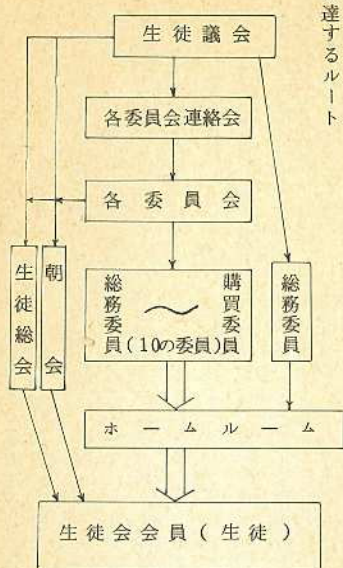
○生徒はどのようなルートから生徒会で決めていることを知るのだろうか。また生徒会のほうでの伝達するルートはどのぐらい活用されているだろうか。またどのぐらい伝達をきこうとしているのだろうか。……ということです。

なぜならば、伝達がしっかりその働きをなしていれば、最低でも今問題になっている議題ぐらいは、知っておくことが、できるはずだからです。それが知られていないからにはこのことにどこが悪いところがあるのではないのでしょうか。

### 5 生徒会の伝達するルート

このような考えのもとに、「生徒会の伝達するルート」を調べてみました。

伝達するルート



### 6 生徒が議題を知ったルート

生徒はどのようなルートから生徒会で決めていることを知るのだろうか。また生徒会の伝達ルートの活用度はどのぐらいであろうか。なべたものがつぎのグラフである。

生徒が議題を知ったルート

○1年	総務から	53%	7%	7%	伝達を無視	32%
	他の生徒から聞いた				1%	朝会
	生徒議会に出席または					ぼうちよう
○2年	総務から	52%	12%	6%	伝達を無視	27%
	生徒議会に出席または					朝会
	他の生徒から聞いた					
○3年	総務から	35%	9%	7%	伝達を無視	48%
	生徒議会に出席					1%
	またはぼうちよう					朝会
	他の生徒から					
○全体	総務から	45%	9%	7%	伝達を無視	37%
	生徒議会に出席または					2%
	ぼうちよう					朝会
	他の生徒から聞いた					

まず、生徒はどのような伝達ルートで、生徒会で今行なっている重要議題を知るのであるか、という疑問を解決しよう。

一・二・三年を通して「総務から聞いた」という人が、もっとも多いようだ。それ以後「生徒議会に出席またはぼうちょうして聞いた。」「他の生徒から聞いた」「朝会」の順である。「伝達を聞いていない」という人が一・二・三年を通じて、あんがい多いのにはおどろいた。とくに三年生はひどい。全体の48%とはめちゃくちゃだ。

全体のところを見ると伝達を聞いていない人は87%これではいくら物事を決めてもまもられないはずである。どうもここに原因があるようだ。

次に生徒会の伝達ルートの活用度はどのくらいであろうか？56のグラフをくらべてみよう。

まずこの中で一番多いのが総務の伝達（ホームルーム）を利用している人である。でもホームルームはクラスのもっとも身じかな会議なのだからもっとこれを利用してほしい。ニヤロメ

朝会はほとんど利用されていない。これでは朝会の意味がニヤイノ生徒総会においては0%である。でもこれはむりもない。たった一回しかやらないのだから。

それでは伝達ルートを利用していない人はどれくらいだろう。

一年||39% 二年||38% 三年||55% 全体||44% である。

最高学年の三年生がなんと55%の人が伝達ルートを利用していないのはおどろいた。しかしもっともたいせつな事はみんながどれくらい生徒会で決まった事を知ろうと努力しているかというところである。

これを見て私はゲッソリした。なんと全体の37%約1/3の人たちは

伝達を聞こうとしないのだ。やはりここに、生徒会で今問題になっている重要議題を知らないということの、原因があるようだ。

これらのことにより、原因は

1. 生徒に伝達を聞こうとする気がまえない。

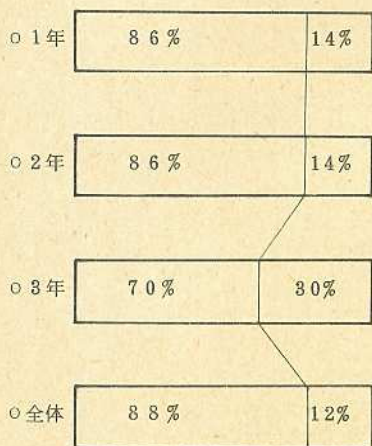
2. 生徒総会の利用がたりない。

3. 朝会の利用がたりない。

という三つにあるようだ。

7 ところで、生徒会で決まった事がまもられていない原因は、今までにたように、今生徒会で問題になっている事を知らない、ということにある。しかしこれ以上に大きな原因はつぎのグラフを見ればすぐわかるであろう。

自分は生徒会で決まった事を守っているか。



まもっていない

まもっている

もうしょくんはおわかりになったろう。すなわち、知っていてもなおさない、ということである。自分で、自分はまもっていかないし知っててもまあいいや、でなおそうとしない。それがもっとも大きな原因だ。今までいろいろやってきたが、決まった事をよりよくまもってもらうには、わかりきったことだが、

一、各生徒が自ら、まもるようにつとめる。

二、自ら伝達をしっかりと聞こうと努力する。

三、生徒總會をもっと利用する。

四、朝会をもっと利用する。

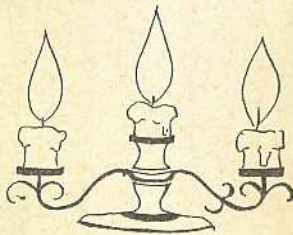
などではないだろうか。みんなガンバロー

## 8 前期会長の意見

現在、生徒会の諸問題を解決するのに、役員がこのアンケートの結果のように一方的に生徒に対して「生徒会に関心を持って」と呼びかけるだけではダメだ。役員は（現状維持）をスローガンにしているようだが、生徒の関心を生徒会に向けるには、まず役員が卒先して行動しなければならぬと思う。生徒会には生徒の協力が必要だ、ということを役員の態度で示すべきである。生徒会を改善する方法として、生徒の協力の促進、という事が多いが、生徒が生徒会に関心を持たないというのは生徒会そのものに欠陥があるからではなからうか。事実、現在の生徒会には改善の余地が数多く残されている。それらを改めてゆくのが先決だと思う。つまり、生徒に協力をたのむのではなく、生徒が関心を持つような生徒会に、生徒会そのものを改善してゆくことが現在の段階では必要だと思う。その意味で、生徒会誌の編集委員にも、生徒側の目を持って生徒会内部の問題も掘り下げてもらいたい。

## 9 後期会長の意見

生徒議會での決定事項、それに関する連絡及び生徒の関心について私の考えることは、あまりにも連絡が不徹底であるということだ。連絡が不徹底であるがために「生徒会は今、何をやっているのか？」というような疑問を生徒が持ち、それがわからないままあやふやにしてしまうので、生徒会のことがいよいよわからなくなり、ついには無関心になって、生徒議會の連絡を無視して、これまたよけい生徒会のこととわからなくなる……。こんな悪循環がいく度となくくり返されているので、今のような生徒と生徒議會がバラバラの生徒会になってしまふのだと私は考えます。では、生徒と生徒議會を密接にするにはどうしたらよいか、それは、今、生徒会に無関心な人たちらんとか関心に向けてもらい、生徒会はだいたい物なのだといいことに認識してもらえば、今よりもっとよい、生徒会ができるものと思えます。生徒のみならず、生徒会の連絡事項に耳を傾けてください。



# CLUB CLUB CLUB

## 文化クラブ

### 技術クラブ

わが技術クラブは、電気・工作・栽培・機械製図、の四つの部門にわかれています。そして、少ないときは、週に0回多いときは週に6回、技術室に集まって各グループにわかれて活動している。活動時間は短いときで30分ぐらい、長いときで2時間ぐらいである。部員は全員で、29名一年生が8名2年生が12名、3年生が9名である。

では、このへんで技術クラブ員の作った作品を紹介しよう。電子ビックリ箱。2石インターホン、1石レフレックスラジオ。タイマールレー。6球ステレオアンプ、5石ラジオ。一石光線リレー、2石アンプ。高感度1石ラジオ。3石インターホン。電熱温床。鉄道模型。特大ノギス。ゴミバコ。工具箱。以上がいままでに作ったものです。ですが、なにぶんクラブ費が少ないのでこのようなものを作るにあたっては、個人負担で作るということになります。さいごに、このクラブは、将来こういう専門的な部門に進むのにたいへんやくだつと思えます。だから、このクラブは、

将来性があると思えます。

### 英語クラブ

体育文化祭での、英語劇「白雪姫」は、まだ、みなさんの御記憶に残っていると思います。あの日に英語クラブの努力の成果が、結果となってあらわれます。英語クラブ員といっても、ペラペラ、英語がしゃべれるわけではありませんから、練習はたいへんです。台本をもった当初は、辞書と首引きで発音や意味を調べます。すらすら読めるようになる、動作をつけて練習し、最後には、みんなことばを覚えてしまいます。たとえ、必死になつて覚えた英語でも、ボンボン、口から飛びだしてくるのは、楽しいものです。自然に練習にも熱がはります。小道具も、みんなで相談してつくりまします。衣装合わせもすみ、そして本番一。こうして今年も無事に終わりました。体育文化祭以後は、一、二年の人を中心にして、会話や歌の練習を行ないます。以上が、ごく簡単な英語クラブの一年ですがいかがですか。あなたも、英語クラブへはいりませんか。英語で、歌を口ずさむというのも、なかなかいいものですよ。

みなさんの入部を期待しています。

## 物理クラブ

物理クラブとは………

ものすごくマジメなクラブ

カワイイ女の子がいないクラブ

ものすごく楽しいクラブ

一年生の部員が少ないクラブ

顔が物理的変化した人が多いクラブ

部費が少ないクラブ

ガラクタで変なものを作るクラブ

部長が一人しかないクラブ

ニャロメがいたクラブ

城中で一番カッコ悪いクラブではない

みんなが入りたくないようなクラブ

みんな物理が好きな人の集りノ

ガラクタを見てよるこんでる人の集りノ

こんなのが物理クラブです。(多少おかし

い所があります)(この原稿は物理クラブの

部長が書いたものではありません。部長は、

もっともっとまじめなんです。

## 音楽クラブ

但し音楽クラブです。「音が苦」クラブでは

ありません。但し男子禁制ではありません。

「野郎」もはいれます。これは数年来、伝

統的な当部の悩みです。なぜ男は音楽を女子

更衣室のように考えるのか？ 歌の好きな男

たちは何を速慮するのか？ 部員の大半を占

める女子が恐しい？ それとも城中の男はみん

な「歌を忘れたカナリヤ」なのか？ 野郎ど

もノ 立ち上がれノ 音楽クラブへはいつて

歌を歌おうノ 楽しい歌をノ ー当部はあく

までも楽しい音楽をめざすクラブです。今、

当部は大きな転換期にきています。それは指

導者に穩健な杉本先生に加えて、ファイト満

々、猛烈な松尾先生を迎えて、一層質の向上

を計っているからです。この二人のユーモリ

ストが部員に純粋な音楽の遊びを理解させて

くださいます。入部に高度な技術など要しま

せん。クラシックファンもポピュラーファン

も邦楽ファンも結構。ただ音楽を楽しもうと

いう気さえあればよいのです。美声の主はま

すます美しく、音痴は美声にし先生方は心の

手術をして下さるでしょう。「美しく美しい

音楽」をモットーとする当部の男女部員を募

るとともに、今後の当部の活躍に洋々たるも

のがあることを予告しておきましょう。

## 美術クラブ

体育文化祭の時以外ほとんどめだたないク

ラブー美術。男子部員が少なく、その少数の

人も活動していないという欠点のあるクラブ。

しかし女子ばかりだといってやりにくいとい

うことはありません。クラブ員全員がとても

よくまとまっています。ユーマアにあふ

れたクラブです。時々「美術クラブって絵の

うまい人ばかりなんでしょ？ 私なんて絵が

へただから恥ずかしくってはいれないわ。」と

いう声を耳にします。とんでもないノ 私た

ちは上手、下手にかかわらず一生懸命作品に

心をうちこんでやっているんです。私たちは

美術を愛しています。ただそれだけです。ま

たそれだけで充分だと思っています。

体育文化祭の作品をしあげるため、毎日授

業後残って書きました。最後の日はおそくま

で残りました。そしてできあがった時：よご

れてちらかった室の中を見た時、ああ、でき

あがったんだノ」という何ともいえない感激

が胸にわいてきました。この感激は美術を愛

する者にしかわからないと思います。

この感激を味わいたい人、又、美術に少し

でも趣味のある人は私たちといっしょにすばらしい作品を作ろうではありませんか!!

### 生物クラブ

生物クラブでは、解剖などもするので「生物クラブはなんて残酷だ」と思っている人が多いと思いますが、こんなおもしろいクラブは、ほかにはありません。

先生をはじめクラブ員全員がおもしろく?とにかくおもしろいクラブです。

しかしクラブのなやみもいろいろあります。まず第一に、一年生の部員が少ないということです。

のんきで、楽しいクラブでもあります。

文化祭の少し前にあわてて、B紙に書いていたり出産業を作ったりしています。森林公園にかえるをとりに行った時などは、実さいかえるをとったのは、十分ぐらいで、あとの三、四時間は公園で遊んでいました。実にたのしいクラブです。

本当のクラブ活動としては、植物の分布を東山などへ調べに行ったり、動植物の生体を調べたり、カビや細菌を顕微鏡で観察したり、葉脈標本や化石のイミテーションを作り文化

祭の時などは、来た人にそれをあげたりしているクラブです。

クラブ員は、みんな生物が大好きです。だから、クラブの時は、みんなまじめに、いっしょうけんめい、やっています。

### 数学クラブ

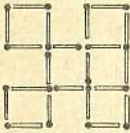
皆さんこんにちわ、数学クラブです。

皆さんの中には「数学」それだけでゾッとする人がいるかもしれません。しかし皆さんがゾッとすること、それは、授業で見る数学しか知らないからでしょう。

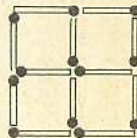
数学クラブは、そんな授業でやる数学とはちがいます。

ではどんな、数学でしょう。テストで、ぼくたちを、苦しめる数学の数や図形によってぼくたちは、楽しむのです。それが、数学クラブです。

どんなことをするのでしょう。例として、マッチパズルをしてみましよう。



↑上の図で、3本おきかえて、同型の正方形を、七つ作る。



↑上の図で、2本取りのぞいて、正方形を2つ作る。

どうですか?

数学クラブの楽しみはほかにもいろいろあります。では皆さんさようなら。

### 地学天文クラブ

われわれの地学天文クラブは、よく地味だといわれます。みなさんからもそう思われてきました。

このクラブは、今まで何度も同じことの繰り返しでした。そこで今年(四四年度)から今までとはちがった、新しいやり方、考え方で進めることにしました。

今年、クラブの入部者が20名ちかくありましたが、この中で、大部分が、一、二年生で三年生が二人しかいなかったので研究が思うようにできなかったのが、残念でした。

部員は、まずグループに別かれ、いろいろな研究を進めていきます。十日の体育文化祭には、各グループの研究の成果が、発表されます。今年の発表内容は、「化石、岩石の腹



示」「火山」「太陽観測」「星座写真」などでした。作品のほとんどが、B紙に書いてあるものです。それを、又、ほとんどの人が、読んでくれません。本当に残念なことです。

今年、一つよいことがありました。それは百葉箱ができたことです。これで、今までできなかった気象観測ができるようになりました。毎日九時半、部員が観測します。雨の日も風の日も、日曜日さえもでて来てやります。ちよつとつらいようですが、これも、「やる気」があるからこそできるのです。地味で目立たないなんてウソです。このクラブの本当の「おもしろさ」は、実際にやっているものだけがわかるものです。今からこのクラブにはいりたい人は、気軽にドーゾ、いつでも大観迎です。

### 演劇クラブ

まことにカッコいいクラブ名である。「放送でドラマをするのではなく舞台上立ち劇をする。」と、いうわけで放送ドラマクラブから演劇クラブと改名、(カッコイイダロー)新しい名前でもう一度新しい気持になってがんばっています。では、クラブの練習はどのよ

うな事をするか、さっそくのぞいてみましょう。

「アイウエオ、イアウエオ、ソウアエオ：」

「この竹垣に竹立てかけたの：：」

「ダメノタケガキとはつきりいつてくださいノ」

きびしい声である。この発声練習がすむと脚本を読みあうのです。文化祭にはすばらしい劇を演じようと、みんな努力しているのです。文化祭：美しい衣装を着て勢いばいやった姿を覚えていると思います。今年はず年と大きくちがった事二つ、一つにテープにふきこむのではなくワイヤレスを使ってやった事、もう一つは衣装をつけてやった事です。今までの学校劇からバトンタッチして名作劇をやったのです。衣装をみせあつた喜び、本当に楽しいクラブです。最後に：わがクラブは男子がひじょうに少ないのです。城中の男子、そして女子諸君、演劇クラブに入ってみませんか。

### 家庭クラブ

今年の家庭クラブはまず調理から始めました。かねてからの念願のスポンジケーキを焼

いたのです。一年生から三年生までみんな協力して先生のご指導のもとにすばらしいケーキを焼きあげました。味はもちろんいりまでもありません。作品としては木目込み人形の制作をしました。うまくてもへたでも自分の作品ができた時はとてもうれしくなるものです。先生を囲んでみんなでおしゃべりしながら楽しく作品を制作してゆく：： あん外そんなおしゃべりの中からも何か学びとるものがあるものです。でもおしゃべりばかりしてもいられません。朝日までに作品を完成しないと先生からオメダマをちょうだいしますからね。

今後の予定としてはペーパーフラワーをやるうかなと思っていたのですが、なにしろ物価高で材料費もおおずかいではまかなえなくなるのでスモックレッシュを練習して、エプロンや手さげ袋を製作しようという計画しています。冬になると毛糸でモチーフを作り、クッションなどの製作が予定されています。調理も今年度中にもう一度やるかと思っています。今からでもおそくありません。調理がやりたい人、手芸に興味がある人は入部して下さい。

## 園芸クラブ

花、花、花、花いっぱいの中にしたいたいのですが、せいぜい運動場の片すみにおわってしまいます。クラブ員が5人で顧問の先生と同じくらいという奇妙なクラブです。

今までに行なったことは、ボールのふちに5種類くらいの種をまいて育てたことと、夏休みの間に菊の苗木を植え十一月の初めに、花をさかせたことです。

先生に

「きみたちが水をせっせとやってくれるので今年の菊のできがいいよ」といわれると、自然に顔がほころびてしまいます。

このよろこびは花をつくってはじめてわかるものです。

苗木を植える時はそうとう苦心しました。こえを入れる時でも茎にすこしでもつけたら枯れてしまうのです。

菊は運動場のそばにおいてあったので、だいたいぶつたもの、花のさきかけのものがバレーボールで数本やられてしまいました。

その時は

(「ここまで育てたのに残念だなあ」と思わず

にはいられませんでした。

これからも城中から花が消えないように、どんどん育てていきたいと望んでいます。

## 謄写印刷クラブ

みなさんは謄写印刷がどんなものか知っていますか？ たとえば、まじめで誠実でかつ又仕事熱心な文化委員のいるクラスなら、学級新聞を作っているでしょう。あれも謄写印刷です。けれども、もちろん学級新聞や生徒会報や小テストのためだけのものではありません。もっといろいろな種類の技巧があるのです。例をあげるなら、まず何といっても色ざりです。色ざりの暑中見舞や年賀状は一段とステキです。たった一色でも、ガリ板をいろいろとくふうして使えば、その微妙な変化が色ざりとは又違ったよさをみせてくれます。それから、百円玉や五十円玉をそのまま紙にすりあげたり、いろいろ、たくさんできません。でも、謄写印刷のおもしろさを知るにはやってみることが、いちばんです。まあ、文句を言わずに、だまされたと思って、だまされたと思うのがいやなら、だまされてやったと思っ、一度やっごらんない？ 自分

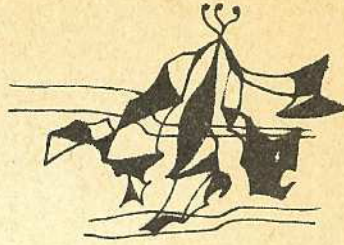
の手で鉄筆を持ってあのカリカリという原紙をきる音を聞いてごらんない？ そして、できあがった自分の作品を、まじまじとみつめてごらんない？

やめられなくなりませうよ。きつと。

## 写真クラブ

写真とは、ただ人の顔を並べて撮るだけのものではありません。写真によって人間の喜び、悲しみ、驚きなどを自由に表現することができます。絵とは違って、人間の瞬間の感情を表現することができるのです。というわけですが、なにも写真クラブは特別技術のある人を部員に望むわけではありません。写真に興味のある人なら、だれでも部員として活動できます。クラブの活動はまず、各自のカメラを自由に使いこなすことから始まります。部員の中には、自分でフィルム装填できない人など一人もいないことは、言うまでもありません。さて、ふだんのクラブ活動で撮影技術を学んだあとは、夏休みを利用してその次の処理(フィルムの焼きつけ、引き延ばし)を行います。自分たちで写した写真を自由に引き延ばすことができるようになりま

す。この他にもいろいろと行ないますが、写真クラブは、自分の個性を充分に発揮して芸術を追究する楽しいクラブです。みなさん、三号校舎にある部員の作品を見て下さい。そうすれば、写真クラブがわかると思います。



## ウインドウ……ブ

### 剣道クラブ

「メイン」みなさんは、剣道をどのくらい

知っていますか。「剣道なんて、チャンバラだ。」と思っている人が多いと思います。しかし、剣道は、チャンバラとは違います。といっても白パーセントは否定しません。やはりチャンバラの要素も含まれていると思うからです。いや、チャンバラに剣道の要素が含まれているでしょう。剣道は、相手が動作を起こしたら、すぐ動作を起こさなくてはいい反射神経が必要で、それが養われます。それに、とっさの時の判断力、礼儀、勇気なども養われます。

ぼくたち剣道部では、練習の始めと終わりにちゃんと礼をします。なんだか堅苦しいように思えるかも知れませんが、けっしてそうではありません。良い先輩ばかりで、クラブの雰囲気はとてもよく楽しいクラブです。

「きびしい時はきびしく、やさしい時はやさしい良いクラブだ。」と思う。「クラブは苦しい時もあるけど、先輩のグジャレがくだらなくしておもしろい。などの部員の意見です。

あなたも、剣道部にはいりたくなつたのではありませんか。

### 柔道クラブ

みなさんの中には、柔道はからだが大きくないと勝てないと思っている人が多いのではないですか。柔道は力と力を対抗せずに、相手の力に順応し相手の力を利用する運動です。技のすべてはテコの理屈を応用しています。このように柔道の技は物理的にみても、合理的に出来ています。ですから、からだの小さい人でも大きい人を投げたり、力のない人でも大きい人を楽に倒すことができます。わが城山中学柔道クラブは、発足以来、三年目の月日がたちました。その間、先生や先輩方が、絶え間ぬ努力をして今日の柔道部ができたわけです。柔道部の連中は、不死身のような強い根性の持ち主になることを望んでいます。まさにそうなること間違いないと思います。

では、素晴らしい柔道部の一日を、紹介しましょう。まず、受身をします。これは、相手に投げられた時にケガなどをしないために行ないます。そして、打ち込みをします。打ち込みは、投げる前までの練習です。つぎに、投げ合い、乱取りをします。乱取りは打ち込みなどで練習した技を、おたがいにかけ合うのです。

身体の鍛練と、精神の修養をしたい人、強

い根性を養いたい人は、強い根性の持ち主になろうとしている柔道部の連中の仲間になってみませんか。

### 水泳クラブ

今年も各大会で先輩に恥じないりっぱな成績を収めた水泳部ではあるが、それは、四季を通じて休む事を知らない、きびしいトレーニングのためであった。六月の梅雨には寒さと戦い、七・八月の太陽の照りつけるプールでは、一段ときびしさを増した練習が行なわれ、九月はめっきり冷たくなったプールで最後の練習があった。しかし、残念な事は去年は、はやり目でプールが閉鎖され、最後の締めくくりの練習ができなかった事である。また、プールの掃じをする事も練習の一部となっている。そして、運動会も終わるころわが水泳部の練習は陸上トレーニングへと移り一夏使ったプールに別れを告げるのである。陸上トレーニングにもまたプールの練習とは違ったきびしいものがある。話は変わるが、水泳部の名物の一つに「三年生追い出し会」がある。この会のヒーローはもちろん三年生であり、部員が楽しくお菓子を食べたりし、三年生に感謝の意を表わしながら今年の反省

来年の練習内容などを話し合うのである。例年ならば、この会の最後に三年生をプールにほうり込むのであるが今年は何のはやり目の影響でこれができそうもないので全く残念である。プールが終わり陸上へ。クラブ員一同バスタを尽くしてガンバリ抜くつもりである。

### ソフトボールクラブ (一年部員記す)

「ソフト部って、どんなクラブだと思う？」と聞くと、「ボールが当たりそうで恐しいわ。」「一・二年の仲がいいし、顧問の先生が部員の中に溶け込んでるって感じだ。」と、少しずつ違う事を言ってくれる。では、この事について、少し説明してみようと思う。まず、初めの意見から：「ボールが当たりそうで恐しい。」なんて言っていたのでは、ちゃんとした練習はできない。だいたい、ソフトというものは、一度ボールを恐れたら、再びボールに慣れるまで、ぐっと捕球のウデが落ちる。だから、ボールが、頭にポコポコ、手足にポコポコ、顔にポコポコ当たる。それでも部員は、ニコリ(?)している。(顔で笑って心で泣いて) では、次の意見：「一・二年の仲がよい。」というのは、どのクラブにも

負けないくらいだ。二年生は、一年生をとてもかわいがってくださって、ためになる事をたくさん教えてくださる。顧問の先生も、二年生以上によくめんどうをみてくださって、とても、イイカンジである。

私たちが先輩になったら、ソフト部を、今以上に良くし、城中の模範クラブにしたい。

### バスケットボールクラブ

では、わがバスケット部を御紹介致します。私たちが、毎日熱心に指導して下さる上川先生・金子先生、そして体育館の平面使用、という環境の中で、のびのびと練習を行なっています。それでは、その練習ですが、バスケットというスポーツは、跳ぶ・走る・投げる十それらのきびしい練習に耐え抜く体力、これら、どれもが大切です。今行なっているおもな練習は、パス・ランニングショット・三対三など、これは毎日。その他、その日の日によっていろいろ。入部直後の一年生は外でフットワーク、きびしい体力作りが行なわれます。さて、練習内容はそのくらいにし、バスケット部という一つの組織に目を向けてみます。まず、伝統的なものには、先輩・後

輩の区別がはっきりしているという事。城中の運動部の中でも、きびしい部類にはいるでしょう。これは、ただ伝統だからというだけではなく、私たちのクラブにとって、とても重要な事なのです。そのほかでは、男女が大変仲が良い事。スポーツで得た友情です。その他いろいろ。最後に、十一月上旬に行なわれた新人戦では、男子も女子も悲しい思いをしました。けれども、それに負けないで、新入戦を足がかりにして、強く、大きく、羽ばたいていきます。

#### バレーボールクラブ (男子)

皆さんの中で、バレーボールを一度もやってみた事がない人はまずいと思います。クラスに一個ずつ配給されたバレーボールや七月に行なわれる校内バレーボール大会など、城中生とバレーボールは、切っても切れないような縁となっており、また、一番親しみやすくなっているスポーツだと思います。そんな中で、わが男子バレーボール部は、練習に明け暮れています。

わが部は、対外試合においても優秀な成績を収めています。今年度の三年生も、県大会

にこそ五位に終わりましたが、新人戦・春季大会・総合体育大会に優勝という、輝かしい成績を残してくれました。これらは、ただ単に城中のバレーボール人口が多い事からなつたのではないのです。現在の二年生、例にとってみると、部員は一年の時五十名近くにものぼつたのですが、日がたつにつれて人数が減り、今では十二人しか残っていません。皆きびしい練習に負けて退部してしまいました。バレー部は、練習量でも他の部をしのぐものがあります。決して、運動神経の良い者だけが残つたわけではなく、毎日の練習による努力が、このような結果を生んだのです。これからも、ぼくたちは、諸先輩の築かれた城中バレー部の名に恥じないように、全員一丸となつて、がんばつて行こうと思います。

#### バレーボールクラブ (女子)

女子バレー部は、二年生約二十名、一年生は数えきれないほど多くの部員によつて作られています。前は、もつと多くの二年生がいたのですが、やはり運動クラブであるため、いろいろな事情で大半の部員がやめていつてしまいました。といつても、これはバレー部

に限つた事ではないと思われませんが。

さて、このクラブ、女子バレー部は、みなさんも御承知のように、勝つたためしがないと言われてきたクラブです。事実、この十年間一度も全校集会で呼ばれた事のないクラブだったので。しかし、現在の二年生にチームが渡り、市内の各校も二年生に渡されて、初めて行なわれた公式戦で、第三位をいたできてきました。これには、バレー部全員、うれしいやら信じられないやらで、てんやわんやの大騒ぎとなつてしまいました。しかし、この結果は二年生だけで作り出したものではなく、決してありませんでした。先輩の励ましと、一年生の協力、先生方の御指導、これらが重なつて出てくれた結果なのです。(あたりまえの事です)でも、バレー部にも困つた事があります。ボールの数が少ない事、練習時間が短い事などいろいろです。しかし、先輩の後をつぎ、後輩に何かを残せるように、努力したいと思っています。

#### 庭球クラブ

テニス。それは、だれもが一度はあこがれるクラブ。何と言つても、皇太子夫妻推薦の

スポーツです。カッコイイ点は抜群!!「あの紺のセーターの人だれ?」「あの髪の短い子何て名前だろ?」などとささやかれている(?)クラブ。しかし、そのカッコイイはずのクラブの命と言うべきコート。今は男女各一面ずつ。それも雨が降れば流されてしまい、その上、心ない生徒に、近所の子供に、自転車に、また車にも荒され、雨あがりの日はいつもコート整備、練習中も「グランドミス」の声が絶えません。さて、いよいよ待ちに待った試合の日。もちろんすばらしいコート、バウンドも面白いもの調子とどこか違います。こんな日ほどわれわれのコートが恨めしい時はありません。通りすがりの人に「なんてひどいコートだ、○○学校のコートでも見てこい」などと言われた事もありました。次に、一番誇れる上等品ノそれは何と言っても部員です。練習中はこわくても、いざとなるとたよりのある先輩。何でも話し、何でも聞いてくれる同輩。先輩を慕い信頼してくれる後輩。こんなすばらしい部員のいるクラブ、それがテニス部です。われわれははっきりに「テニス部以上のクラブはない!!」と言い切れます。われらのテニス部パンザイ!!

### 卓球クラブ

わが卓球クラブは、卓球というスポーツ自体がすごく親しみやすいせいか、四月のクラブ編成の時などは、男女合わせて百四十名余りもいました。城山中どのクラブと比べても人数ではひけをとれません。しかし、こう言う卓球台二・三十台はなければいけないと思う人がいるかもしれませんが、実際には男子二台、女子二台しかないのですが、まあ、まあ、間に合っています。これは何を意味するか、それは遊び半分でクラブには入り、はいつたらすぐ卓球台を使って毎日楽しくできると思っている人が多いのです。しかし、卓球はそんなにあまいスポーツではありません。その人たちは、はいつたらすぐ卓球のむづかしさを知り、毎日卓球台を使ってできると思っていたのかあてがはずれ、基礎練習ばかりなので、どんどん卓球部をやめて行き、男女合せて三、四十名となってしまっただ今、卓球台は、男女合わせて四台、これでああ、まあ、間に合っているというわけです。卓球クラブとしては、百人以上も部員がいなくてもはいった以上、卓球にモレッツなフアイトでぶつかる人を望んでいます。そして

卓球と言えば、「城山中」と、だれからも言われるように、卓球クラブ員は、どんな困難な厚い壁も突き破っていく覚悟です。

### 体操クラブ

我等体操部メンバーは根性・志・勇気・積極性・持久力・耐久力を持っています。だからあのすばらしい、演技ができるのです。

平均台、床運動・とび箱・団体演技等、体操部が試合で競うものがありますが、全部練習が基礎なのです。(他のクラブと同じようですが。)それを、何だあのくらいと言っている人が、骨を折ったり、ネンザしたりするのです。そういうのを素人のあさましさって言うのかな。「練習は成功への道。」というくらい大切なものなのです。

肩書きはくすんだクラブですが、仲間はずいぶん明るく愉快です。そして融和にやっています。ミンナ頑張っています。一時はクラブ顧問の關係で解散寸前になったこともありましたが、部員の熱意によって立ち直りました。

チャスラフスカ・加藤沢夫等大先輩を前に猛烈に努力しています。

体操の内容についてはあまり触れませんが

したが、難しくてやめていく人がいます。しかし、難しいからこそファイトを燃やしてやっている人も多いのです。

若者よ

身体を鍛えておけ、逞しい身体に……

### 陸上クラブ

完全なクラブなんてありえないと思う。いったい完全なクラブとはどういうものだろう。みんなが協力し合い、それぞれの短所、長所を磨き合い、一団となって練習、あるいは研究していく、これがクラブの理想だろうが、ぼくは、もつとほかにクラブというものが、そう、陸上部としての、陸上部だけに存在するものがきつとあると思う。陸上部には伝統がある。顧問の先生方や先輩の方々が築き上げた伝統が、大きな意味で、すごく大きな意味で。そのために小さな小さな、できごとの考え方が必要なんだ。その小さな小さな物は陸上部には、数知れなくある。陸上部だからこそ存在するのだ。しかし、それが陸上部だけにある、陸上部だけに存在するものだろうか。陸上部は確かに強い。そして素晴らしいクラブ名古屋市の陸上部では、名実ともに第一位。

このすべて競争の陸上部において、第一位の座は、いっこうにゆるがない。女子の方も、だんだん力をつけている。それも日ごろの練習、ただ練習のみでうちたてられた強さだろう。

陸上部だけに存在するもの。今の段階では、わからない。しかし、ぼくたちが、三年になって、陸上部を去る時、それが切実に身にしみてわかるだろう。だから、そのために、陸上部は毎日、毎日、雨の日も、風の日も、練習に励んでいるんだ。



### 生徒会行事

さて、このあたりで、今年度あった、生徒会行事について、ふりかえってみましょう。生徒会が行なった、個々の物を取り上げるときりがありませぬので、ここには、バレーボール大会、運動会、体育文化祭についてだけ載せました。

まず読んで下さい

ネ。



## バレエボール大会

九月二日、少々、寝ぼけていたのかも知れない。「生徒会誌の原稿を書いてくれ。」という。たいてい美人でもない女の子のたのみを、あつさりひき受けてしまった。それからというもの、毎日が苦難の日々。ひっしになってなんとかここに書きあげたしだいである。くだらん前書きはこれくらいにして、肝心なことにうつろう。

テーマは、「バレエボール大会について。」このバレエボール大会いちばんはじめに行なった偉い生徒会の役員はなにを考えて、はじめたのだろう。多少ゆがめられているにせよ現在のバレエボール大会の趣旨である「クラス内の団結をより強力にし、クラス対クラスの關係を深める」ということと本質的には同じことを考えていたのだろうと思われる。実際、それがバレエボール大会の趣旨ならば、現在の我々のバレエボール大会は、練習風景、それから、試合のときの風景を見ていると、なかなかチームワークが大事にされているし、応援もいっしょうけんめいやられているようだ。また、クラス間の対立もなく、うまく施行されているようにたいへんよろしい。バレエボール大会はスムーズにうまく行なわれている。だれにきいてもそういう言葉が、はねかえってきた。もちろんきみもそうこたえるだろう。が、ぼくはある一人のめがねをかけた、三年生の先輩のことばが非常に印象に残った。めがね先輩は、こういったのである。「これがいいのか？我々のバレエボール大会は、ただのバレエボール大会でしかないではないか。」この一言、この一言こそぼくの待ち望んでいたことばであった。君たちのバレエボール大会は、見た目は趣旨に忠実に行なわれているのだが、いまひとつものたりないものがあつた。そこをグサッと、つ

いたのがさきほどの発言なのである。ようするに、バレエボール大会というものは友情という名称で呼ばれる、一種の愛情を育てるために行なわれる。しかし、バレエボール大会はそのきっかけにすぎない。ただバレエボール大会自体をうまく行なっても、バレエボール大会の趣旨は、達成されないのである。もりたりなさのこるはずである。「どうすればいいの」そう君に尋ねられても困るが、後は、君自身で君のその力強い手で友情というものを作っていくかなくてはならないのではないだろうか。そして君が、そう努力することによって、バレエボール大会の趣旨が達成されるのではないだろうか。ある哲学者は、言っている。「よしんばあなたの友人があなたをうらぎるようなことをしたからとて、あなたは友人の悪を人に語ってはならぬ。長い間の友情がゼロになるからである」このように長いあいだには不愉快なことが、いろいろとあるだろうがくじけてはならない。眞の友を確立したときの幸福を考えれば、そんなものは、なんでもないことなのだ。そんな幸福をバレエボール大会は、君に与えようとしているのである。あらためて、我が学校の、伝統的行事であるバレエボール大会を考へなおしてみる必要があるのではないだろうか。



## 運 動 会

絶好の天気恵まれて十月十六日予定どおり瑞穂グラウンドで第22回運動会が行なわれた。ではその内容を順をおってふりかえってみよう。軽快な曲に合わせて入場行進がはじまった。みんななまじめな顔をしてはいって来た。列を整えきちんと行進して来た。開会式にはいり、国旗掲揚、開会の辞、校長先生のことば、PTA会長の方のことば、審判長注意、そして選手宣誓によってみんなの気持ちがあきしまつて来た、若い力の斉唱、全員でラジオ体操をして、これでみんなは自分の席にもどり、いよいよ各種目がはじまった。

最初は八〇m、八〇m目の予選だ。最初という種目は不利なものでみんなが各クラスの代表を見ている。つまりトップバッターである。それに選手の人々の心動揺、そんなものが入りまじってなんとでもないふんいきをつくっている。さてスタートの前ともなると選手は、ハードルをじっと見つめる。一年生はハードルがないので二、三年生よりはおちついていよう。三年生にはほとんどいないが、二年生の中にはハードルをとぶのがやつとだなどという人もいる。ビリの我らの代表よがんばれ！ さてつぎに一〇〇m予選。これはあまり差がひらかないので、ビリになってもあまり目立たない。けれども速い人を見てみると、なぜあんなにスピードが出るのかが不思議である。つぎに二〇〇m予選である。二〇〇mは一〇〇mとちがいが大きくひらく。それに距離が長いので最後のほうはフラフラである。たいへんだ。もうなにかを感じてくる。さて単独競技をおわり、つぎはリレーだ。まず男子の八〇〇mリレーだ。さすがにリレーとあって、どの組も速いメンバーを組み合わせてある。優賞のクラスは、スピードも関係あ

るが、バトンタッチがすぐくうまい。さすがによく練習したことがあらわれている。優賞にはなれなかったクラスでも練習がしっかりされているという感じのクラスがあった。つぎに女子の四〇〇mリレーだ。この種目は男子八〇〇mリレーとくらべると距離も短いし、男子のようなスピード感はあまり感じない。しかしコーナーの争いは女子とはいえどもすごい競走である。つぎは二二〇〇m混合リレーだ。急にばくのまわりの人がいなくなった。なにしろ二人もぬけてしまった。多人数なのでトップのクラスとビリのクラスの差がだんだんひらいていく。男女混合なのでどうもバトンタッチにいきが合わないらしい。男子と女子とのスピードのちがいでタイミングのずれがでてくるのだらうと思う。だから男子と女子とのスピードの差があまりなく、バトンタッチのうまいクラスはよい成績をおさめている。そろそろおなかもすいてきたなあと思ったら昼食のすぐ前の競争競戯である。玉入れであった。小学校の運動会を思い出した。見ているとおもしろいもので各クラス投げ方がちがうようだ。たくさんどんでん投げ



クラス。よくねらいをつけて投げるクラスなどだ。玉を入れるバケツを下でささえている人はいたいへんである。しかしバケツの持ち方が悪いなどとやじをとばす人もいた。さてそれがおわり、いよいよ昼食の時間だ。みんなひっしに食べている。生徒が席について一つのことをしていたのは、この日の中でこの時だけではなかったかと思つた。さて腹ごしらえもおえて午後の決勝種目であるが、フィールド競技のほうをわすれていたので順番を入れかえてそちらのほうにうつる。まず走り幅とびだ。選手が入場したときに、おれはやるぞというようなきはくが感じられた。さすがにクラスの代表だけあり、みんなよくとぶ。優賞の人はやや人間ばなれした感じである。その人たちは高とびにでもよい成績をおさめるだろう。さてその走り高とびのほうにうつろう。だいたいの人はい正面とびでとんでいるが、中にはペリロールでとんで失敗している人もいた。さてつぎは砲丸投げである。ぼくも一度投げたことがあるのだが、すごく重い。あの小さなものがどうしてこんなに重いのが不思議だ。ほんとうに口では言いあらわすことのできないくらいに体積と重さの関係なのだ。それを投げるのだからたいへんである。それを八mから一〇mとばすのであるから、うでの力がひじょうにいる。女子でもそれを投げるからたいしたものだ。さてこんどはソフトボールだ。砲丸よりは軽いがこれも速くとばそうと思うとたいへんだ。なかにはプロ野球からさそいがくるかと思うぐらいよく飛ばす人もいた。さてトラック競技のほうにうつる。決勝練習にはいっており、選手の顔ぶれも、午前からくらべると、よりいっそう粒がそろっている。それだけに各選手とも、きはくが増している。さて最初から決勝の一五〇mだ。予選がないためクラスの期

待も大きい。選手はみなきんちようしていた。長距離を走るため差も大きくつく。それだけに選手の中のにもやるぞという大きな闘志がわいてきている。スタートと同時にみんなの声援がきこえてくる。

「ガンバレ。」などと応援する。一、二周目はあまり差もないが、四周目になると差が大きくなる。最後を走ってきた人に、おしめない拍手がおくられる。位置的、精神的にも苦しかったろう。しかしそれにもめげず最後まで走りとおしたことはえらいと思う。もう一度その人に拍手をおくろう。さて順番は入れかわり男子のマスゲームだ。見ているのは女子と先生方、それに父兄の方で、かんじんな男子が見ていないのである。女子に感想をきくとカッコイイといっていた。さて女子のマスゲームにうつる。女子は自分たちでカッコワルイんだよといっていた。男子もあまりよくないと言っていた。しかしいっせいに立ちたりする動作などはひじょうにきれいであった。さて種目をぜんぶおえて整理体操、そして閉会式。各学年ごとに優秀なクラスが表彰された。以上で運動会はおわりだが、この運動会が成功をおさめたのは、かげの力があることをわすれてはならないと思う。各クラスの応援団がふんいきをつくり、またそれをこわさないように風紀、美化などが秩序を正してくれた。まだまだいろいろあると思う。もちろん練習のとき流した血や汗のけっしょうだということは、いうまでもない。それらが運動会を盛りあげたのだ。青春のエネルギーをぶつけた時、みんなよくやった。みんながんばった。そこに生きているんだということを非常にうれしく感じた。

## 体育文化祭

体文スケツチ

〔開会式〕

いつもの通り、強制でつめこまれ、みんなフウフウ言いながらの開会式。弁論大会と合唱コンクールを一度に聞かされ、それがめまぐるしく入れ変わるの、みんな少々うんざりぎみ。

〔討論会〕

生徒会の問題点、生徒と生徒会との密接化というようにつねに問題になっていることを討論していた。出席した一年生の卒直な意見を聞いてみた。と、「くだらない。おもしろくない。」「三年生の一部の人が一年生を無視した。」など……みなさん、もう一度考えてみてください。生徒会のあり方を。

〔レコードコンサート〕

どういうわけか、すごい人気、まさか委員諸君がもてることもあるまいし。前日は、ポピュラー用の針がなくなる等のハブニングもあったが、人気だけあって大成功だったようだ。

〔バスケットボール〕

女性のファンが多い。男女共、二年生対三年生の対抗試合だった。非常に敏速な動きにふだんの練習がうかがわれる。何しろ、うっとり見とれていた人もいたくらいだから。これからの期待が大きいクラブだろう。

〔柔道部〕

城中のつわものどもが、たたみの上で エイノチャーッノとやっつてい

た。見ているだけでも、気持ちがいい。先生もがんばって生徒を投げとばしていた。ただ、あれだけやっつけて人が出ないのは、さすが立派だなと思った。

〔バレーボールクラブ〕

二・三年の対抗試合だった。さすがに伝統？のクラブだけあって、人気実力ともすごかった。特に女性のファンが多かった。すばらしいアタックが決まるたびに、体育館に拍手とため息がうずまいた。

〔庭球部〕

紳士のスポーツ？テニスは、二つの校舎にはさまれて、押しつぶされそうにやっていた。それでも、みんな一階や二階の窓から首を出して見とれていた。今年は男女の混合ダブルスでみんな気持ち良さそうに、ボールをたたいていた。

〔陸上部〕

運動場はオレたちの物、といわんばかりに、一ぱいに広がって、汗を流していた。みんな一生けん命だったが、なんせ場所が広いのでマイクを持ちだしての宣伝だった。しかし見ている人は、たいてい動いているようだった。

〔体操部〕

女子の方には男子、男子には女子のファンがついた。鉄棒や平均台では、みんな絶妙な技を見せてくれた。しかし、男女バラバラで同時にやっつたので、説明の先生が大変だったろう。でも、どうして、あんなにたくさん男の子が集まったのかな……

〔ソフトボールクラブ〕

今バレー部との試合をやってきたばかりの先生との対戦、みんなの

声を紹介すると「あの年でよくやれますね。」「明日、平気かな。」

「女の子があんなかっこうするなんて。」「あーあ 見ちゃいられねえ。」さまざまだったが、やはり男性ばかりの見物者だった。

#### 〔剣道部〕

最初基本の形をやったのち、学年別の紅白試合が行なわれた。一年生は、別として、二年三年の試合となると、見所のある、白熱した試合だった：三年生の一人と先生の試合などは、日ごろのウップンハラシが、すごいものだった。

#### 〔卓球部〕

二年三年混合対抗試合だったが少し自分たちだけでやっている感じがした。しかし見ている方は熱心だった。

#### 〔美術クラブ〕

新館の二階には、美術クラブ員の力のこもった絵が出品されていた。物語を絵にしたものが多く、夢があり、その絵の世界に引きづりこまれるような錯覚をおこし、楽しいひとときだった。

#### 〔写真クラブ〕

つねに写真部の作品は展示されているせいか、そんなに変わりばえがしないナァ」という感じをうけた。しかし、コーナーシャルに出てくるようなかわいさかりの子どもたちの写真はいつ見てもいいものですね。

#### 〔手芸部〕

人形だとか、テーブルクロスなど、きれいな作品がいっぱい。私も見ていて、「自分でいろいろ作っておへやを飾ったらすてきだろな。」「だれかにプレゼントしてもいいな。」などと考えてみた。やはり夢

がありますね。

#### 〔数学クラブ〕

教室へはいると目がチラチラする数字、数字、数字、「これわかる？」と問題を出されたので、いっしょうけんめい考えてみたもの。答はうかんでこない。答を言われてみれば「あゝそうか。なんだ。」と思う。ひねくれているだけのこと。私の考えていた数学クラブとはちがってたいへん楽しいクラブだった。

#### 〔理科系のクラブ〕

教室にはいつとひとりみまわして、私のもっとも目についてものはカエルの解剖がすぐきれいだったこと、授業でカエルの解剖をしたあとだったので関心があったせいだろうか。また、岩石など、くいいるように熱心に見ていた人もいたようだ。

#### 〔謄写印刷クラブ〕

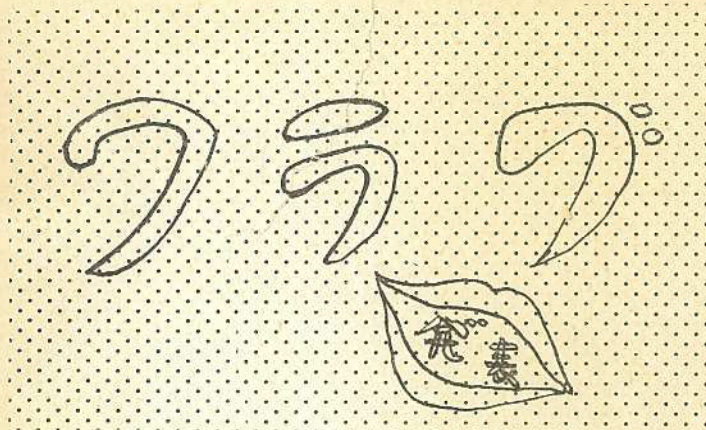
教室に作品が展示されていた、色彩豊かな作品ばかりで、たいへんすばらしかった。年賀状に印刷するとすばらしいものができあがるそうだ。「ひとつ、やってみませんか。」との声。「まだ、まわるどころがありますから。」と言いながら、まわりを見たら、みんながやってくるやってくる。自分の好きな絵を書いている書いている。ほんとうに楽しそうだった。

#### 〔音楽クラブ〕

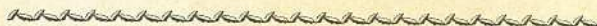
きれいな合唱、みんなうっとりしていた。独唱については、賛否両論だったがまずみんなの声。「どうせなら、フォークソングあたりをみんなでブチカマセバいいのに。」「あの毒唱にはしびれた。」「素適だわ。もっとたくさんやればいいのに。」……

〔英語クラブ〕

有名な白雪姫だったが、男性の少ないのと、テープレコーダーを使ったのは驚いた。ハローとグッドバイ以外わからなかったとの声もあった。



郷	社	文	◎
62	60	44	
研	研	豊	次



# 目 次

詩	1 年 中西美穂	<ul style="list-style-type: none"> <li>..... 太陽のように (48)</li> <li>三輪のバラ (49)</li> <li>知らないもの (51)</li> <li>月 (52)</li> <li>ひとり (53)</li> <li>哀しみ (55)</li> <li>少年の想い (58)</li> <li>赤い命 (58)</li> <li>絶 望 (58)</li> <li>今日と明日 (45)</li> </ul>
	大 橋 博 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>..... 夏の日の思い出 (47)</li> <li>風と私 (48)</li> </ul>
	3 年 水 野 元 恵	<ul style="list-style-type: none"> <li>..... 春 (52)</li> </ul>
	木 村 友 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>..... 鏡の中のわたし (45)</li> <li>夜 空 (46)</li> <li>夕 陽 (49)</li> <li>白 菊 (50)</li> </ul>
	吉 川 敦 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>..... 雨の日に (51)</li> <li>恋がしたかったのに (53)</li> <li>つばめの恋 (54)</li> <li>春の町で (45)</li> <li>夏はすぎたのに (45)</li> <li>無 情 (48)</li> <li>青春の道 (50)</li> </ul>
	渡 辺 英 和	<ul style="list-style-type: none"> <li>..... 星 空 (46)</li> </ul>
	中 西 弘 往	<ul style="list-style-type: none"> <li>..... 空 (45)</li> <li>友 (49)</li> <li>机 (51)</li> </ul>
	井 本 正 徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>..... カエルの余勢 (53)</li> </ul>
	江 尻 曜 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>..... 秋のおとづれ (46)</li> <li>静かな世界 (47)</li> <li>一番苦手なのは (49)</li> <li>だのにどっか似てるよ (51)</li> </ul>
	太 田 久美子	<ul style="list-style-type: none"> <li>..... 死 (46)</li> <li>恋 (47)</li> <li>悪魔の城 (49)</li> <li>れんげ草 (51)</li> </ul>
	早 田 敏 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>..... 秋の夜と子ども (47)</li> <li>もどった春 (52)</li> <li>夜があけたとき (54)</li> </ul>
	樺 原 洋 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>..... 冬の詩 (48)</li> <li>せみのぬけがらの手紙 (50)</li> <li>心 は (9)</li> <li>秋の詩 (54)</li> </ul>
	倉 知 真 弓	<ul style="list-style-type: none"> <li>..... 私は誰が好きなんでしょう (50)</li> <li>秋立つ日 (52)</li> <li>眠たい (54)</li> </ul>
	嘉 藤 亮 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>..... とときあ集 (56)</li> </ul>
短 歌	1 年 中西美穂	<ul style="list-style-type: none"> <li>..... (55)</li> </ul>
小 説	3 年 吉 川 敦 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>..... 夕陽と共に (59)</li> </ul>

鏡の中のわたし

木村友子

鏡の中のもうひとりのわたし  
わたしが笑えば笑い  
わたしが泣けば泣く  
もうひとりのわたし  
心まで鏡に写るのかしら

涙が ひとつぶ

鏡にそって流れる

鏡の中のもうひとりのわたし

泣き虫のわたし

そして泣き虫のもうひとりのわたし

雨の日に

吉川敦子

雨が降る

土くさいにおいを

ぶんぶんさせて

地面は大きく口をあけ

雨を残らず のんでしまう

木々を生きかえらせ

大きく背のびさせる

灰色の空が呼んでいる

星 空

渡辺英和

木々よ

大きく育て

私の胸にとどくまで

夜空に 一つ一つ輝く星

その星空

それは 青空にも等しい

星空は ずーっと見ても飽きない

それは 想像を 広げてくれる

そんな星空を ずーっと見たいものだ……

空

中西弘往

ジェット機が一機

まっさおな空をよこぎって行った

その後にくつきりと白い棒がひかれていた

まっさおな まっさおな空を

人間は よごしていった

ああ こんな美しいものまで

人間は よごすのか

人間は雄大な自然までを

自分のものにしたいのか

空よ、青い空よ

愚かな人間どもに言ってやれ

人間どもをどなりつけてやれ

「どこまでいったら気がすむのだ」と

でも、空よ

まっさおな

けがれを知らぬ空よ

しかたがないのだ

これが文明のおきてなのだから

秋のおとずれ

江尻曜子

さわやかな風が

町にやってきました

みんなに あいさつにやってきました

風は花にささやき

青空を駆けめぐる

目とじれば

きのうまでのあの焼けつく太陽が顔を出す

そんな太陽とバトンタッチした風は

私の心を ごむまりのようにはずませる

もう秋だ

さわやかな秋のおとずれだ

風が秋をのせてやってきたのだ

死

太田久美子

遠い黒い雲の上から私を呼んでいるサタン  
闇の世界に

私をひきずりいれようとしているサタン

嵐の夜に私のトビラをノックした

空は怒りの稲妻をはなち

大空が激しくゆれている時に

サタンはやってきた

私は人々に救いを求めた

すべての人々に……

しかし 人々の目は氷のようだった

◇ ◇

また一枚 散った……

葉のない木が北風に吹かれ

カサカサと音をたてている

春は青い芽をつけ希望にふくらんでいたのに

夏は太陽と握手していたのに

秋は涙を流して青空と別れていた

そして冬がやってきた

冬將軍がやってきた

また一枚 散った  
風に吹かれて……

カエルの余勢

井本正徳

カエルは勢い余って池に落ちる//

そうだ

草むらに寝ようとしたら

運動が知らんふりして前進し

あわててとめようと思ったら

池に落ちたのだ

ハスの上で寝ようとしたら

熱量が発散し

バランスをとろうと思ったら

池に落ちたのだ

カエルの常は冷静だ

しかし そのとき

きつ//と腹いっぱい空気を吸っている

行動を起こしたら大変だ

へびも乾池もない

けりの連続だ

ジャブジャブと

カエルは濁水を泳いで  
平気にいる

腹は そんな大胆さで  
ふつくらと重しがかかっている

恋がしたかったのに

吉川敦子

恋がしたかったのに

風はひとりぼっち

愛がほしかったのに

花はひとりぼっち

大草原を吹きまくり

大草原の片隅にひとり

風は花を愛していたのに

花は風に恋していたのに

彼らには みつけられなかった

二人の愛を

愛を知らず

恋を知らず

だから

恋がしたかったのに



夜 空

木村友子

木の葉の陰から  
そつと夜空をながめる  
そこには

星と月以外

何も持たない黒い  
空虚なものがよこたわり  
まるで

この地球を おおっているように  
横たわって

星の光で私たちを見つめている

そこには何があるのだろうか

暗い夜空

星が、またひとつまたたき

時は流れ

しかし夜空には

月と星と空虚な世界が存在するのみ

秋の夜と子ども

早田敏子

秋の空は夕空を

血潮のように赤く染めて

帰宅への長い影をてらした

小さな子どもは家へ帰って行く

その中にひとりだけ

「さよなら」をいいおくれ

ひとりさびしく鳴くからすがいた

その黒い翼も

やがて黒バラのような夜空に消えていく

しかし

黒バラの無気味な中にも

子どもはおばあちゃんのおみやげを

おもちゃの指輪をみつけた

いくつもいくつもふえていく

子どもはその指輪を

だれかに盗まれはしないかと心配だった

夜もふかまり

子どもはそんな心配など忘れ

夢の園へ足をふみいれていた

そしていつの日も

子どもの指輪は

北の空で光っていた

恋

太田久美子

君知るや わが胸のうち

月と泣きし胸のうち

君知るや わが涙

星と泣きぬれし夜

君知ることなかれ

わが思い

われ一人思い 一人泣く

朝日のごとく燃えて

夕日のごとく沈む

ある日 突然におそいきて

突然に消えゆく

それが恋 初恋

わが恋がめばえしとき

そはあの人が夜空の星をあおぎし目を

キラキラ光る目を見つけしときなりき

わが心は朝日のごとくなりき

私の恋が終わりしとき

そはあの人が

夜空の星を仰ぎ見しときなりき

突然にわれ知りぬ

あの人が夜空の星に恋をしていることを……

あの人は夜空の星となりぬ  
恋をしていた星のとなりぬ  
過ぎ去りぬ

朝日のごとく燃えて  
夕日のごとく沈む  
そはわれの恋なりき

## 冬の詩

神原洋子

冬は独りの私の中に  
突然細かい粉になって  
ふっと散ってしまふ  
そんな心の中に

冬は着物のない木と木の中に  
さむざむと体を堅くした  
ためいきばかりの灰色の肩に

冬はぼつたり重い雲の下に  
つめたい雪をはぐくむために  
今は重い沈黙の中に

冬は独りの私の中に  
冬は重い雲の下に

冬は……  
かわいた叫びと共に

## 友

中西弘往

友、それは真の宝  
友、それは目に見えない大きなささえ  
友、それは遠くにいても  
いつも自分を見ていてくれる人  
友、それは一本の白い細い糸  
友、それはあるときはよき指導者  
友、それはとても大きな壁  
友、それは私の真の宝  
そして心のささえだ

## 太陽のように

中西美穂

太陽はすてきだ  
いつでもどこでも体中から  
情熱的な光を発散させている  
どんなに強い風が吹いても  
どんなに冷たい雪が降っても  
太陽の光は消えない  
自分自身の力で強くたくましく

光をはなっている

人間も太陽のように静かに心を光らせ

太陽のようにあこがれの中心になりたい

はげしい風にもたおれず

たおされず生きていきたい。

太陽のようにいつもかわらぬ姿を保ちたい

けれどやっぱりだめだ

人間と太陽はあまりにもかけはなれている

かけはなれすぎている……

## 夕陽

木村友子

いまにも暗く暮れそうな

よどんだような色の西の空を

赤く まっ赤に染めて

夕陽が沈む

赤い赤い空に

くつきりと映える太陽

雄大なそのながめ

雄大なその姿

暗く暮れそうな空を

赤く燃えつきた夕陽が

去ろうとしている

## つばめの恋

吉川 敦子

私はマネキンに恋をした  
毎日毎日あいにいき  
マネキンはほほえんでくれた  
春いとでもいい日も  
夏の暑い日もあいにいき  
でもマネキンは  
ウインドの中

なまあたたかい風が  
涼しい風になり  
そして  
寒く冷たい風になった時  
私は雑踏の中に一人  
紙くずといっしょに  
ウインドのそばの吹きだまり  
そう  
私はつばめ  
春の鳥

## 悪魔の城

太田久美子

夕やけの色と黒い雲がかさなりあったとき

悪魔の城は姿をあらわす  
夕やけの色は たちまちのうちに  
血の色に変化し  
黒い雲は ほのおにつつまれる  
嵐をおこし

地震をおこし  
数限りない命を奪う悪魔の城  
稲妻は恐れを知らず光る悪魔の日  
風は あれ狂う悪魔の心  
雨は地をたたきつける悪魔の喜びの涙

やがて太陽が沈み  
黒い雲が いずこともなく消えさるとき  
悪魔の城も姿を消す  
あとに残るは  
夜空に輝く無数の命と  
地上の家の暖かい灯だけ

## 静かな世界

江尻 曜子

しとしとと降っている雨  
雨の音だけがリズムカカルに  
いやさびしげに私の耳にはいつてくる

いつもの虫のおしゃべりも聞こえてこない  
いつもの町のざわめきも  
ピタリと止まっている  
雨と私だけの世界

昼下がりに車と人といっぱいにごった返す町  
そんな町にもまだこんな世界があった  
さびしいさびしい世界だけれど  
私はそんな世界が好き  
誰もがおちつき誰もが考えれる世界  
いつまでも いつまでも  
こんな

## 三輪のバラ

中西 美穂

一人ぼっちのあの人に  
バラを一輪あげてください  
一人ぼっちのあの人に  
おもしろいやりを一かけらあげてください  
一人ぼっちのあの人に  
愛情を一粒あげてください

それが三つのバラにかかります

私は誰が好きなんでしょう

倉知真弓

私は誰が好きなんでしょう  
私は誰が好きなんでしょう

あの子は チョッピリ カッコイイ

ほらあの子は 理知的

その子は やさしそう

みんな みんな すてきにみえてくる

そんな そんな 年頃なのかな

心が不安定

あの子を心の中にしまいながら

ほかの子をみるとまた心がさわぐ

私はほんとに誰が好きなんでしょう

私はほんとに誰が好きなんでしょう

## 机

中西弘往

机は長い間私をじっと見つめてきた

机の上にはいろいろな物が

ゴタゴタと置かれている

だが机は長い間その重みに耐えてきた

机にはいろいろならく書がぎざまれている

だが机は長い間その痛みに耐えてきた

そんな机を見るとなんとなく

たのもしく見える

でもなんとなくさみしくも見える

重みに耐えられないのか

それとも傷が痛むのか

## 春の町で

吉川敦子

あなたの町に風が吹く

私の町にも風が吹く

ほら

幸せをのせた風が

ここにも そこにも

小さな若葉と

たんぽぽのささやきを聞きながら

春の幸せをいっぱい含んだ風が

ふくらんでいる

すすけた えんとつの中にも

草花のかけにも

春の風がおどっている

小鳥の羽毛を風にのせ

春の風は吹いてくる

ほら

ここにも そこにも

## せみのぬけがらの手紙

榎原洋子

カサカサと落ちてくる風と

軽い太陽の日ざしの中にいます

丸い夢の中にいます

落ち葉でうもれた土の上に

自分もうもれそうになりながらいます

雲の話をする高い木のそばにいます

足音のない世界で

何も思わず生きています

じっとしています

平和です

実に

知らないもの

中西美穂

夢ってなんだかわかる？

説明してください

私はわからないから

夢って見たことある？

みせてください

私はみてないから

夢って何色かわかる？

教えてください

私は知らないから

だけど全部知ってしまったら

夢が色あせちゃうんじゃないかな

一番苦手なのは

江尻曜子

一番苦手なのは

おかあさんにおこられることです

一番苦手なのは

おかあさんに笑われることです

一番苦手なのは

おかあさんに泣かれることです

一番苦手なのが

三つもあります

れんげ草

太田久美子

緑色のじゅうたんの中の春

ピンク色のれんげのまよう

一面の緑 一面のピンク

その中に もんしろちようが二つ

はてしない春の中をとびつづけるように

舞っている

青空の青と草の緑が

遠くで かさなりあっていた

春の生まれ故郷でかさなりあっていた

◇ ◇ ◇

狭い花壇のすみっこに

一輪だけポツンと咲いている

雨の日には

雨のしずくの宝石作りに忙しそう

ほかの花は、しょんぼりしているのに……

晴れの日には

太陽にむかってあいさつをしている

ほかの花は

まぶしそうに目をそむけているのに……

狭い花壇の一輪の紫色の花

夏はすぎたのに

吉川敦子

夏はすぎたのに

道ばたに

黄色くなつた木の葉が一枚

草をなでとおる風が

ひんやりしてきたのに

私の心には

まだ夏は来ない

鈴虫が草のかげで

冷たく鳴きだして

柿の実が

色づきはじめてなのに

私の胸は

何かしら うっとうしい

じめじめとした

つゆのような空気に つつまれている

ああ

ああ

真夏の太陽がほしい

もう

夏はすぎたのに

月

中西美穂

人間が月へいった……。

月はとつてもきれいだつた

黄色にひかつていつも私たちを

見おろしていた

神秘的で美しかった

けど本物の月はちつともきれいじゃなかつた

砂がいつぱいだつた

噴火口もいつぱいだつた

だから私は信じてる

月は二つあるって

白菊

木村友子

白菊よ

あわれな白菊よ

おまえは

水の中に舞い散つてしまうのか

なんとあわれな白菊よ

おまえは水の中に散つていく

私のさびしい思いのように

水の中の思いは

どんなに冷たかろう

白菊よ おまえは私のはかない思い

私のはかない思い

なのにあの人は知らない

白菊 それは私の

人知れずあの人を思う心

白菊 それは私の悲しい心

秋立つ日

倉知真弓

あなたよ もうすぐ秋です

二人ではぐくんだ夏でした

花時計の上に投げかけた二人の影は

どうなつたでしょうね

あの海辺での語らいを覚えていますか

あなたよ もう秋です

広野にさわやかな風を送ってください

もどつた春

早田敏子

人だかりの中に

あなたと私がい

二人きりのときは

ゴツゴツした岩のように

冷たいあなた

どこか しつくりいかなあなた

私には不安がつるばかり

だけど きよう

私はあなたに甘えてみた

ただつこのように

おさな子が母に物をねだるように

その時 私の不安は

枯れはてた花びらと散り

再び私の心には

赤い花が咲きほこつた

そして私は

あなたがとても近い人にみえた

私の胸は高なつた

人々はこの二人を気にもかけなかつた

走り去る人

笑つていく人

私はみんなに言いたかつた

「今一度

私はこの人を愛した」

心は

神原洋子

心は太陽に光るヤツデの葉  
緑 緑 緑が光る  
光る 光る  
ぬれて冷たくゆれる時放つ光の輪  
太陽からもらった夢の中で  
ゆれる ゆれる  
夜になると瞳を閉じて  
心を閉じて  
全身で星をうけとめながら  
全身に星を宿しながら  
ねむる ねむる  
空に飛ぶ雲  
うつら うつら  
赤い 赤い雲  
朝やけの中だとぶ  
雲を感じて夢がとぎれたら  
ヤツデの瞳  
さわやかな心のめざめ  
緑 緑 緑のざわめぎ  
心は太陽に光るヤツデの葉

だのにどっか似てるよ

江尻躍子

鏡を見ます  
右から左から  
おすまししたり  
ニカッと笑ったり  
でも似ていません  
目も鼻も  
まゆげも口も  
おかあさんとは似ていません  
だのにどっか似てるよ  
おかしいなあ  
もう一度二人並んで鏡を見ます  
やっぱり似ていません  
だのにどっか似てるよ  
私はうれしくなったり悲しくなったり……  
今もわからぬまま  
また鏡をのぞきこみます

無情

吉川敦子

山に向かつて呼んでみる  
心に響くのは  
むなしい山びこだけ

谷間の小枝から

小鳥の声

霧の晴れ間から

山の頂

さびしくやりきれない思いが

私の体をむしろばんでいく

ああ

私が天使ならば

天使ならば

ひとり

中西美穂

私は

ひとりになりたい

ひとりぼっちで

静かに自分を見つめたい

それなのにこのいそがしい現代は

その機会をあたえてくれない

どんなにひとりになりたいくても

どんなにひとりを求めても

現代は冷たい

人間が努力して

築きあげた文明に

人間が苦しんでいるんだ

秋の詩

榊原洋子

秋は青空の白い雲

秋はぶどう色

秋は枯れ葉の詩

あきはかれ葉のうた

秋は心に一粒落ちた風

秋は湖の底のおちつき

秋はすっぱい味

あきはすっぱいあじ

秋は一握りの時間

秋は黄色や赤の山道

秋は小さなささやき

あきはちいさなささやき ささやき

夜があげたとき

早田敏子

夜があげた

まだ朝露が

小枝をうるおしている

どこからか

新聞配達のかくの音が

小鳥のさえずりと和して  
快くひびいてくる

この清い空気の中で  
都会のあわただしさを忘れる

名も知らぬ山村の

快い朝のように

小鳥たちは

朝のあいさつをしている

私はただ静けさの中に酔う

朝があげたときだけ

美しさがあり

そして

静けさがある

そして心の中に  
やすらぎを与える

眠たい

倉知真弓

この気持ちだけは

どうしようもないんだなあ

だって上のまぶたと下のまぶたが

「こんには」というんですもの

それから上のまぶたと下のまぶたが  
くっついてゆく  
あなた!!

あなたならその気持ちわかるでしょ  
だって授業中に眠ってるのを  
みつけたんですものね

青春の道

吉川敦子

ポプラが輝いている

青い空を背にして

ポプラが またたいている

風を休いっぱいにうけて

さあ あそこまで走ろう

力いっぱい

大地は彼の太い根で

はりめぐらされているだろう

さあ

君たちも

彼のように大地に根をおろすまで

走ろう

走ろう

大きな夕陽が沈むまで



哀しみ

中西美穂

貴方のことがしりたくて  
ひらいてみたけど悲しくて  
バタリとしたの泣きながら

貴方にとどけてあげたくて  
いってみたけどせつなくて  
だまっておりたの石段に

貴方の おとしたあの手帳  
今では貴方の胸の中

一度は私もふれてみた  
白い表紙のあの手帳  
一度は私も抱きしめた  
白い表紙のあの手帳

短歌

暗黒の道路を一台ゆくバスの  
まどから見える

わびしい空席

◇ ◇ ◇

夢多き つぼみ花咲く若人は  
雪がふつても 希望がもえる

少年の想い

君の美しい目は

水晶の神のものさ

君のクリ色の髪は

ゆうだいな海の神のものさ

君の赤いくちびるは

秋の山の神のものさ

だけどその光かがやく

バラ色の心だけは

ぼくのものだね

赤い命

バラの花が散りました

真紅の花びらが全部、全部

さみしそうにおちてゆきました

けど一枚だけおちていませんでした  
私はこの花びらのような心がほしいんです

絶望

ぜつぼう

ゼツボウ

絶望

人生のいたるところに

ころがっている

こんなんのかたまり……

今日と明日

今日という日は二度とこない

だからせいっぱい生きなくちゃ

明日という日はかならず来る

だから希望をもって生きなくちゃ

だけど……

かならずくる明日も

いつかは今日になるんだね

〔私の詩集〕

ときあ集

## 春は来ない

嘉藤亮子

北風の吹く原っぱ  
ただ風の声だけが  
私の心にしみる  
なにもない原っぱ  
風だけが冷たい原っぱ  
夕日に燃える

私の瞳いっぱい  
夕日が広がる  
そして それがにじむ

枯れはてたこの地  
もう春は来ない

## あなたと春

かすかにほほえんでいる  
あなたとともに  
春はやって来た

もう来ないと思っていた春だったのに  
私の好きな

すみれの花束と小さな青い芽  
あなたは玄関に  
春の香をそっと残していった

## 告白

うつむいているあなたのほおは  
夕焼けのようです  
瞳の輝きが

なんともいえないあなたです  
小麦色のはだから  
土の香がただよってくるような  
あなたです  
陸上できたえた

はちきれそうな若さのあなたです  
不思議な あなたです  
ぐんぐん引っぱられていくようです  
不思議です

## あなた

じっと外を見つめる

あなた

私は見た  
ガラスに あなたの  
さびしそうな横顔が  
映っているのを

窓べに静かに立っている  
あなた

私は見た  
黒いまゆにしわをよせ  
くちびるをかみしめている  
あなたを

私は見た  
あなたを

## 彼の瞳

黒く輝く瞳  
秋の夜を思わせる

涼しそうな瞳  
澄みきった瞳

じっとみつめる

その瞳の中に  
何かをみいだせるまで  
求める何かを

その中から みいだそう  
まばたきもせず みつめる  
その瞳の中に  
希望という輝きを  
みいだそうとする  
その存在することを信じて  
みつめる  
それをみいだせる日まで

### 生きているから

今ここに  
こうしてすわっている  
私には聞えるの  
あなたの声が  
あなたの力強い声が  
私の心を  
夏の陽のようにしてしまふ声が  
私には見えるの  
あなたの姿が  
あなたの姿が  
運動場を駆けている姿が

陽を照り返しているまっ白なシャツが  
私にはまぶしいの

今 私の心は  
熱く燃える汗を  
しっかりとにぎっているの  
あなたの声が聞えるから  
私のまっ毛も  
黒い影をほおに落して  
かすかに ふるえているの  
あなたの姿が見えるから  
私の心は躍動しているの  
私の中にはあなたが生きていくから  
私の心にはあなたが生きていくの  
たとえ私が  
あなたの中に生きていなくとも……

### 土 手

土手を駆けて駆けて  
まるで自分の気持ち  
風にふりはらおうとするかのように  
むやみに草を踏みじり  
小石を投げる

それでも

耐えきれず  
手にした小石がかすむ  
肩はふるえ  
目には何もうつらない  
慰めてくれる人は遠い  
ひとり木の下にすわる

涙は枯れ  
もはや頭には何もない  
やっと力なく立ちあがり  
歩きだす  
ふと 土手をふりかえり  
今さらのように  
その広さを知った

### 若き日のひとこま

人の輪から離れ  
ひとり窓からじつと外を見る  
まるで死人であるかのように  
じつと動かす  
涙も流さず叫びもせずに

自分には何もありません  
たつたひとかけらの希望すら  
失われてしまった

敗北の中に

自分を葬ってしまった

自分を愚劣の人と思い

屈辱し失望する

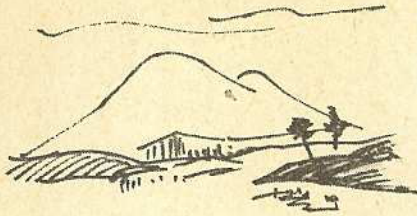
自分を救うべき道を見失い

生けるしかばね以外の

何でもありません

半ば死にかけている自分を

どうしていいものか……



## 夏の日の思い出

大橋 博子

青い波がうたれる

この海辺

白い雲がながれる

あの青空

さっていった夏の思い出は

きのうのように

はかない

砂浜によせる波よ

夏の日の思い出を

かえして

## 風と私

春の風 小鳥がとびかう あたたかい風

夏の風 太陽がかがやく 強烈な風

秋の風 鈴虫のなく すずしい風

冬の風 さざんかのさく 冷たい風

私の心も 風

ひとつの心に冷たい心と暖かい心

さびしい心がひとつになって住んでいる

私の心も風みたい

おこった時の冷たい心

うれしい時の暖かい心

ひとりの時のさびしい心

風は 私の心

## 春

水野 元恵

ずっとまっています

春を

美しい花も

こげ茶色の土も

緑色の木の芽も

つめたい雪の下で

ずっとまっています

春を

春を

あたたかい

春を

## 夕陽と共に

吉川敦子

沈みかかった夕陽が、なごりおしそうに町を照らしています。そして町のすみまでも。

そこには一匹の子犬がいました。白い毛を風にふるわせいかにも寒そうでした。町の一角にある公園の木の下。耳と足を小刻みに震わせうつろな目で夕陽を眺めていました。そして小さく、クンとなくと、夕陽に向かっていました。

「僕の友達をどこへつれていったの。」  
でも返ってくるのは、むなしい風の声だけでした。彼は尾をたれ、寂しく歩きだしました。でも、どこへも行くあてがなく、冷たいアスファルトの道を歩きだしたのでした。そして考えるのは、「友達」のこ  
とだけ。

彼はハッとして足を止めました。「友達」がいたものですから。でもちがっていました。なぜならそれは、どこかの坊やに連れられブラシのきれいにかかった犬だったから。「友達」だって茶色の毛がふわふわしていたけれど、あんなに澄ましてはいなかったもの。彼は力が抜けていくようでした。そして、なぜあの時、追いかけていかなかったのか、その後悔で胸がいっぱいになりました。それは三日前の冬も近い朝でした。

彼と「友達」は、いつものように、かけっこをしていました。二匹とも、とても小さいので、まりがころがっているようでした。楽しくって、どんどん走っていききました。とうとう苦しくなって公園の木の下で休んだ時でした。見知らぬ、こわい顔をした男が彼らの方へ歩い

てきて、彼らを両わきにかかえました。二匹には何が何だかわかりませんでした。でも彼は反射的に体を動かし、巧みにわきから、飛びおりました。そして、どんどん逃げたのでした。「友達」の「キュン、キュン」という悲しそうな声も、彼の耳には届きませんでした。

「ああ、僕は何としようとしたのだろう。」

涙がほおを伝いました。そして、前よりも、いつそう首をたれ、歩きだしました。長い影を重たそうにひきずりながら。

突然、彼は車のブレイキを聞きました。彼は本能的にそちらの方へ足を向けました。そして、ぎくつとして立ち止まりました。頭を鉄のバットでぶたれたように感じたものですから。彼は見たのです。「友達」の最後の姿を。そしてガンガンいつている耳にはいつてきたものは。「何だ、犬か。そこをあき箱にでも入れて、この川に流してしまおう。」そして「友達」の死体を無造作に箱にいれ、初冬の川に投げ捨て、車は去っていつてしまいました。「友達」のふわふわだった茶色の毛には、血がべつとりついています。何も食べなかったのか、あんなに太っていた体が、げっそりやせていました。いいえ、それほどやせてはいなかったのです。でも彼の目には「友達」の体が、すっかりやせたように見えたのでしょう。投げこまれた瞬間、とび散った水の花びらが、「友達」のほおについて、まるで泣いているようでした。

彼の頭はからっぽでした。いいえ、彼の胸は愛でいっぱいだったのです。ただ、彼には、それがわからなかっただけなのです。その時彼は、知らぬ間に川を泳いでいました。恋が彼を引っっぱっているとも知らずに、目に涙をいっぱい浮かべ「友達」の眠っている箱を迫ってどこまでも、どこまでも……………。

社会研究クラブ

1. 顧問の先生

信藤先生・小笠原先生

2. 活動内容

見学・討論などを活発?に行ない、社会のあらゆることについて考え、研究しようというまことに意気さかんなクラブである。

○見学について

いろいろな工場(食料関係が多い)や市場・遺跡・役場・展示会などを見学したり、たまに、映画を見たりして、社会への見聞を広め、歴史や、経済などの知識を深めている。

○討論について

いろいろな社会問題、身のまわりの問題・見学したことについての感想など、幅広く話し合っ、互いに理解を深めている。

始めに

三年生は、テストに追われて、なかなか原稿が集まらず二年生は、あまり熱意を持っていないのかどうかしらないが、これもまた、原稿が集まらず、ほんとうに少数の人の原稿しか出ていないので、まことに残念である。今年、少々、怠慢だったようだ。

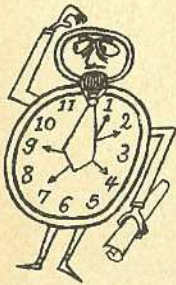
研究物としては、少々おはずかしいものしかないのがまことに残念である。

今年、見学もあまりしなかったし、討論会もあまりふるわなかった。

多に反省して、もっと活発に行動していくようにしていきたい。

計画は、いろいろと立てたのだが、どうも実行力がともなわず、不振の年になってしまった。

本当は、もっとがんばって、活発に活動してほしいものである。



見学記

「ブラザー工場見学」

二年九組 宮田 半児

ぼくは小学校六年にこへ来た時は、大きなビルと平屋建ての工場があった。工場には少々がっかりした。

そして、今年の八月、クラブでみんなと一諸に来て見ておどろいた。ドデカイ新工場が立派に立っていたからである。工場の建物は立派だけど、中はどうなんだろう?。映画が終ってから、期待を持って工場の中へはいった。

見学して感じたことは、すごく活気があることである。これから、どんどのびていく分野の勢いを感じた。

次に、上から下へと進んでいく工程は、なかなか能率的だった。階下にいくにつれて、マシンができていく。見ていて実にスムーズで気持ちよかった。こうするには、思い切った新機械導入と人事移動をしたにちがない。

勢いによって、マシンから他の部門への進出をさかんに行っているようだ。しかし、ぼくは、家庭電気製品への進出はちょっと、

ムチャだと思う。なぜならば、資本金や販売組織等々においてまさる企業、例をいえば、松下・東芝・日立・三洋・早川などが、がっしり消費者を捕えているからだ。果して、ブラザーの進出は成功するだろうか？。家庭電気製品の業績はいかに？。

楽器への進出は、うまくいくと思う。「ブラザー」の名で案外られるかもしれない。一〇%のシェアが目標だそうだが、近い将来達する日は来るであろう。

さいごに、すばらしいオートメーションを見ることができて、たいへん参考になった。工場内の掲示板を見ると、従業員促案制を採用していた。「どんなことでもいいから、ことを改善しようと思ったら提案しよう。」と、気軽にといかけていた。また、個人の能力に応じて、配置が変わるそうだ。

モータール社社の一面をのぞくことが出き、いろいろな面で大変に参考になった。

## 「ブラザー工業見学感想文」

二年九組 遠藤 護

見学日 昭和四十四年八月二十六日

私は、この工場の見学は、二度目である。まず、一度は、小学校六年の時に見学に来た。もう一度は、今度の見学である。

六年生の時に来た時は、まず、本社でいろいろな製品、それから、それらの製品がどのようなにしてできているかなどの映画、解説もしてもらったのち、となりの工場でミシンの製作風景を見学した。

しかし、見学時間が少なかったので、あまりくわしく見る事ができなくて残念だったけれども、だいたいミシンができるようすはわかったように思えた。

今度の見学は、二回目なので、多少のことは知っていた。しかし、新しい工場を見学したので、機械も新しく、作り方も少々かわったように思えた。

作業員の顔は、だれが来ても、関係ないというような顔つきであった。

見学した中でも、一般家庭用のミシンは、男子従業員よりも、女子従業員の方が多かった。

工業用ミシンの方は、だい部分の従業員が男の人たちであった。その人たちの手をよく見てみると、油だらけであった。毎日毎日やっている手がへんなふうになってしまおうのではないかと思った。

その次は、はじめて見たタイプライターの製作であった

バツと気づいたのは、大部分の従業員が女の人たちであったこと。それに、部品が、皿みたいなものにつけて、工場内をゆっくりと回っていることである。その皿の中の部品を、ひとつひとつ取り出して組み立てていく。

タイプライターは、細い部品が多い。それで女の人の手先のきょうなところが役に立つので、このへやには、女の人が圧倒的に多いのだとぼくは思う。

不思議だったのは、大体できあがったタイプライターを試験しているときに「け」の字を多く打っていたことだ。

疑問に思ったので聞いて見たら、これは、水平であるかないかをしらべるために、「け」をいれるのだと教えてくれた。

最後に、ほかの工場にくらべて、静かできれいな工場だと思った。

# 「長島熱帯植物園を見学して」

三年十一組 大島明美

## 植物園案内図

		7.		6. 水れん		5. ワニ池		4. シダ類	
		ヘビ池		2. アブラヤシ		3. ビンローヤシ		入口	
12. 花木		11. 旅人木		9. 大王ヤシ		1. ココヤシ		出口	
				10. ココヤシ		ユラスヤシ		ハス池	
13. 熱帯果				14. サボテン		15. 水れん		出口	

1. 大型ヤシ林
2. 大型ヤシ林
3. 中型ヤシ林
4. シダ園
5. ワニ池
6. 水草
7. ヘビ池
8. 中型ヤシ林
9. 大型ヤシ林
10. 大型ヤシ林
11. バショウ林
12. 花木園
13. 熱帯果樹園
14. サボテン山
15. 水れん

### ○熱帯植物園の特徴

根：高温多湿の好条件で成長する植物は、非常に早く成長するために水分及び栄養分を多く必要とし、また旺盛な繁殖力のために気根を出すもの・風による例状を防ぐために発達した支柱根を持つものや、高温多湿をのがれて樹上に

生育するために、発達した着生根をもつものなど、我国では見られない形態のものも多くあった。

また、水中に生育するものは呼吸根を出して呼吸し、乾燥地では、地下深く主根をのぼして土壤水を吸収する。

幹：強い日光による過乾燥、日焼けを防ぐために、樹皮が白色をおびたものが多く、また外皮にコルク質が発達し、水分の蒸発を防いでいる。年輪はない。多湿地で生育する植物は、幹が軟弱だが、繊維はよく発達しているようだ。

葉：ジャングルの中に生育する植物は、少しでも多くの光線を受けるために、葉の形が大きいそうだ。まったくうちわや、ぼうしになりそうなくらい大きな葉がいっぱいである。

乾燥地では、水分の蒸発を防ぐために退化したり、変形して、ほとんど形を有しない。サボテンなどがそのよい例である。乾季と雨季のある地方では、雨季に発芽し、成長を遂げ、乾季には落葉し、休眠するものや、葉の貯水細胞が発達し、多肉質となるものもある。

花：一般に大きくて、香り高く、原色の強い南国風な、はなやかなものが多い。

### ○熱帯植物の紹介

・ヤシの木

原産地：インド、マレイ、フィリッピンなど

用途：幹は、住居の建築用材となり

実からは、油を採りコブラと呼ばれているそうだ。食料とするほか、石けん、人造バターなど大切な工業資源となりそのしぼりかすもプーナックといつて立派な家畜の飼料となる。実の繊維は、タワシなどに利用される。

若い実の中には液は牛乳のようで大切な飲料となる。種類によつては染料やローソク、防腐剤、燃料、砂糖、菓子などの原料となる。また、観葉植物として、広く楽しまれている。



・果物

バナナ、パイナップルや、熱帯植物の王様といわれるマンゴー、女王様格のマンガスチン、ドリアン、パイヤなど、熱帯地方独特のすばらしい香りや強い味を持ったくだものがたくさんあるそうだ。

・シダ類

中生代の地球を思わせるように、うっそうとおいしげっていた。今にも大きな、ハ虫類がスツと顔を出しそうな感じだ。ムガデそっくりのきもちの悪いシダからチョウのようにかわいらしい美しいシダまで、いろいろとあった。温帯では、なかなかみられないものばかりだった。中には、化けもののように大きな葉をしたシダもあった。

・水生植物

水の女王といわれる熱帯性スイレン。ピントク、ホワイト、ブルー、さまざまの色のスイレンが大型の香り高い花をつけていた。

また、人間が三人ぐらい垂れそうな大き

な船のようなオオオニバス。

その他いろいろな水草があった。

・その他

砂漠の花サボテン・ゴムの木・仏教にててくる菩提樹、私たちの日常生活に欠かせないものとなったコーヒーマツ、紙の元祖パピルス、バナマ帽子で有名なバナマツウ、食虫植物のウツボカズラ、タコの足のような気根を出すタコの木など珍奇な植物や美しい植物、美味な果物、私たちの生活になくはならない物の原料など熱帯地方独特のすばらしい植物でいっぱいである。

これらの植物が、うっそうとおいしげるジャングルや草原。そこに生活するさまざまな動物たちのことを想像し、いまままで味わったことのない、自然の雄大な姿をのぞみきもちよかった。

## 名古屋市の地下街

### 主要商店街の調査

#### 社会科学郷土研究クラブ

#### (1) 研究の動機と内容

##### 一、研究の動機

私たちが休日になると出かけるのは、まず栄・名古屋などのデパート、商店街、地下街だろう。

毎日、たくさん人の流れがあり、たくさんのお店が並んでいる。

これらの商店街、地下街について興味を持った私たちは四月からの共同研究としてこのテーマを取りあげたわけである。

私たちの生活に深い関係のある、商店街や地下街。毎日何の気なしに買物をしているが最近、栄に新しい東地下街、サカエチカなどが完成したように日ごとに大きく移り変わり進歩しているのである。

その進歩のようす、どんな人たちに利用され、どんな条件のもとにぎわっているのか少しでも知り、深く考えていこうと、このテーマに取り組んだわけである。

##### 二、研究の内容

六班に分け、路上の商店街を一、二、三班地下街を四、五、六班で受け持ったわけであ

るが、ここでは路上の商店街を第一部とし、地下街を第二部とする。

#### 第一部

##### 路上の商店街の調査

一班：東山 ↑ 千種

二班：千種 ↑ 名駅

三班：金山 ↑ 大津橋

商店街の平面図を作り、商店と客に対する質問を行ない、その分類と分析を行なった。

#### 第二部

##### 地下街の調査

四班：名古屋地下街

五班：栄地下街（東地下街、サカエチカは含まない。）

六班：今池地下街

商店の平面図を作り、商店と客に対する質問を行ない、その分類と分析を行なった。

※ なお、第一部、第二部とも三年前の私たちの先輩の行なった調査と比較しながら平面図を作成していった。

#### (2) 研究の経過

##### 四月 研究目標の決定

始め郷土の歴史、古墳の調査、名古屋市の公害の調査など数々のテーマが出たが、資料

も豊富で実際にわりあい近くの範囲なので歩いて、見たり聞いたりすることが可能だということから、本年度の研究目標は「名古屋市内の地下街、主要商店街の調査」ということに決定した。

##### 五月 研究対象と班組織の決定

○路上商店街調査グループ（第一部一～三班まで）

○地下街調査グループ（第二部四～六班まで）を編成、次における商店街、地下街を対象とすることを決定した。

第一部 東山―末盛通―覚王山通―今池―千種―新栄町―栄―伏見通―名駅

までの調査と、金山―大津橋の調査を行なうことに決定した。（三班までの分け方は研究の内容を参照）

第二部 名古屋地下街、栄地下街の市内三地下街の調査を行なうことに決定した。（三班までの分け方は研究の内訳を参照）

六月 各商店街、地下街の実地調査  
平面図を商店街、地下街ともに実地に歩いて制作、質問も少しずつ進めていった。

七月 各商店及び顧客に対する質問  
六月と同様であるが、商店や家に対する質

間を中心に行なった。

八月 まとめと研究討議

夏休み中のクラブにあてられた数日、出校日の授業後などを利用して、各班、各グループごとに資料をまとめ、内容を分析、討議し、少しずつ体育文化祭用の掲示物の作成なども行なった。

九月 体育文化祭用掲示物の作成

授業後の決められた時間を利用してではあったが、体育文化祭用の掲示物を作成していった。分析などもひととおりで完了という形になった。

十月 体育文化祭

生徒会誌に掲載するための編集

体育文化祭はクイズ、懸賞なども加えてにぎやかに行なわれた。

終了後は部長をはじめとする各班のリーダーで生徒会誌に掲載するための原稿の編集方法のアウトラインを決めた。それからは、前記のメンバーによって原稿が書かれ、それを第一部（路上の商店街の調査）と第二部（地下街の調査）に分けてまとめ直し、この原稿ができたわけである。

(3) 第一部 路上の商店街の調査

東山 一名駅

※ 私たちに特に関係の深い場所として東山一地下街と、第一名駅街をここでは取りあげてみた。  
 ※ 割線は3年前の町土研習クラブの調査結果と比較して変わっているもの、空白は空地、または家屋。

※ 東山一地下街

ガソリンスタンド	靴	衣類	くつ	化粧品	食品	カンパウ	理容	雑貨	不動産	薬	作品	器具	銀行
全東山													
車庫	車庫	車庫	車庫	車庫	車庫	車庫	車庫	車庫	車庫	車庫	車庫	車庫	車庫
東山センター													

洋服	洋服	洋服	洋服	洋服	洋服	洋服	洋服	洋服	洋服	洋服	洋服	洋服	洋服
K・K 朝日生命													
食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品
名古屋ショップ東山店 (旧マコー)													

靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴	靴
ガソリンスタンド													
食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品
東山センター													

洋服	洋服	洋服	洋服	洋服	洋服	洋服	洋服	洋服	洋服	洋服	洋服	洋服	洋服
美野院													
食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品
美野院													

ガソリンスタンド	ガソリンスタンド	ガソリンスタンド	ガソリンスタンド	ガソリンスタンド	ガソリンスタンド	ガソリンスタンド	ガソリンスタンド	ガソリンスタンド	ガソリンスタンド	ガソリンスタンド	ガソリンスタンド	ガソリンスタンド	ガソリンスタンド
東山													
食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品	食品
東山													





電々公社		海軍	海軍	海軍	海軍												
料亭	化粧品	カメラ	カメラ	能	化粧品	料亭	英南	駐	物産	海軍	ラレスト	飲食	ビ	果物	貴金属	海軍	スパー

電気		銀行	工業	洋行	飲食	カメラ	喫茶	ガラス	銀行	銀行								
銀行	洋行	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍	海軍

能	楽器	風船	カメラ	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行
映画館		朝日新聞	朝日会館	海軍	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能

カメラ	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行
宝	石	薬	の	店	味	味	味	味	味	味	味	味	味	味	味	味	味	味

洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行	洋行
金庫	ミ	レン	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶

新名古	食	食	食	食	食	食	食	食	食	食	食	食	食	食	食	食	食	食
玉	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶

1) 全商店の分析 (総数 1,061 店)

デパート 3

飲食店	住 宅	衣 服	菓 子	喫 茶	銀 行	不 動 産	生 命 保 険	タ バ コ	そ の 他
149	113	71	44	34	29	32	14		

2) 全区域の店数の割合 (総数 1,061 店)

- イ 東山 → 本山
- ロ 本山 → 寛三山      ヘ 千種 → 新栄町
- ハ 寛三山 → 池下      ト 新栄町 → 栄
- ニ 池下 → 今池      チ 栄 → 伏見
- ホ 今池 → 千種      リ 伏見 → 名駅

1041

イ 東山 → 本山	ロ 本山 → 寛三山	ハ 寛三山 → 池下	ニ 池下 → 今池	ホ 今池 → 千種	ヘ 千種 → 新栄町	ト 新栄町 → 栄	チ 栄 → 伏見	リ 伏見 → 名駅
139	116	137	2	72	42	131	71	73

3) 各区域の割合

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ	リ	100%
イ 東山 → 本山 (総数 139)	飲食店	住 宅	衣 料 品	菓 子	喫 茶	不 動 産	銀 行	タ バ コ	そ の 他	64%
	35	37	16	29	36	22	25	22		
ロ 本山 → 寛三山 (総数 116)	飲食店	住 宅	衣 料 品	菓 子	喫 茶	不 動 産	銀 行	タ バ コ	そ の 他	62%
	42	13	34	34	39	22	22	22		
ハ 寛三山 → 池下 (総数 137)	飲食店	住 宅	衣 料 品	菓 子	喫 茶	不 動 産	銀 行	タ バ コ	そ の 他	43%
	39	45	93	45	37	37	26	22		
ニ 池下 → 今池 (総数 137)	飲食店	住 宅	衣 料 品	菓 子	喫 茶	不 動 産	銀 行	タ バ コ	そ の 他	
	44	115	181	25	24	64	26	22		
ホ 今池 → 千種 (総数 72)	飲 食 店	住 宅	衣 料 品	菓 子	喫 茶	不 動 産	銀 行	タ バ コ	そ の 他	3%
	134	363	44	65	21	68	22	0		
ヘ 千種 → 新栄町 (総数 42)	飲 食 店	住 宅	衣 料 品	菓 子	喫 茶	不 動 産	銀 行	タ バ コ	そ の 他	64%
	32	97	32	63	48	63				
ト 新栄町 → 栄 (総数 131)	飲 食 店	衣 料 品	喫 茶	不 動 産	タ バ コ	そ の 他				72%
	91	24	26	53	20					
チ 栄 → 伏見 (総数 71)	飲 食 店	衣 料 品	菓 子	喫 茶	銀 行	そ の 他				12%
	159	51	22	72	218					
リ 伏見 → 名駅 (総数 73)	飲 食 店	衣 料 品	菓 子	喫 茶	銀 行	そ の 他				25%
	338	91	45	41	182					



3. 店および客に対する質問

店に対する質問

質問をした場所	店 種	性別	年令層	客の多い日
東 山	ふ と ん	女	20~35	別がない
"	靴	"	20~25	金曜日
唐 山	洋菓 子	"	30代	土曜日
"	電 気	"	30代	日曜日
本 山	書 籍	男	いろいろ	平均して
"	雑 貨	女	"	季節の変わり目
城 山	茶	男	40~50	日曜日
"	生 花	女	いろいろ	土曜日
末 盛	飲 食 店	"	20代	日曜日
"	楽 器	"	17~18	いろいろ
覚 王 山	青 果	"	30代	日曜日
"	雑 貨	"	"	土・日曜日
池 下	八 百 屋	"	"	土曜日
"	釣 具	男	"	土曜日
仲 田	寝 具	女	いろいろ	別がない
"	食 料 品	男	30~50代	土曜日
"	スポーツ用品	"	いろいろ	土曜日
今 池	洋 装 店	女	30代	日曜日
"	菓	"	"	土・日曜日
千 種	楽 器	男	平均して	わからない
"	電 気	"	30代	天気の良い日

家に対する質問

質問をした場所	性別	年令	住 所	目 的	感 想
東 山	女	30代	東 区	観 光	よかつた
"	"	20代	大 阪	"	"
"	男	30代	津 島	"	ゴミゴミしている
唐 山	女	"	小 牧	"	人が多い
"	男	20代	千 種 区	な し	飲食店が少ない
本 山	女	"	"	帰るところ	な し
"	男	"	"	買 物	騒音がひどい
城 山	女	30代	春 日 井	用 事	貧 弱
"	男	40代	千 種 区	な し	な し
覚 王 山	女	30代	"	買 物	うるさい
"	"	"	"	"	せまい
"	男	20代	"	"	な し
"	"	"	"	"	"
池 下	女	"	"	"	"
"	男	30代	"	帰るところ	まあまあ
仲 田	女	"	"	"	な し
"	男	20代	"	"	"
今 池	女	"	笠 寺	買 物	あいそがわるい
"	男	"	平 針	学校帰り	きたない
千 種	女	30代	春 日 井	買 物	な し
"	男	20代	千 種 区	"	"

#### 4. 東山 ↓ 名駅での感想

これだけのものを調査するということは、簡単なようでないへんむずかしい。私たちも

これについて、書店が多いということは、本山から東山にかけては文教地区であり高校大学などが多くあるからであろう。

はじめは軽い気持ちでいたのがしだいに、思っていたよりむづかしかつたし大きな仕事だったので、なかなかうまくいかなかった。

今池には私たちの感じからいくと飲食店（とくにバーとかキャバレーのようなもの）が多い感じがするが平面図、分析表から見てもよくわかるようにそれらが特に多いということはない。その理由としてそれらの飲食店は

これを調べているといういろいろなことがわかる。きつとあなた方もそれを考るだろう。どの街角にもあるように思われる「タバコ屋」という店がたいへん少ないのである。そして喫茶店も。

おもに小路にはいりこんでいるからだということがあげられると思う。質問ははじめはとても恥ずかしかつたが、おわって考えてみるとたいへん大きな価値があったと思う。東山―千種だけで質問をしたわけだが、東山、唐山付近では五人中四人までが

これら、これらの店が、みんな菓子店とかねたり、大きなビルの中にあるからだ、とい

たが、東山、唐山付近では五人中四人までが観光（つまり動植物園見学であろう）とこた

えに思われるのはなぜだろう。それだけ、タバコ屋が庶民の心に深くはいりこんでいるからではないだろうか。

観光（つまり動植物園見学であろう）とこたえた。このようなところは自然が多く、名古屋でも環境が良いといえる。その他の繁華街を調査して来た私たちは、今とても良い環境に生活しているということを感じさせられた。

また大きなビルの中には、中小企業がたくさんあった。また銀行は、池下以西に多くあった。特に栄―伏見間には銀行、証券会社などがたいへん多いようだ。

覚王山はやはり買物中心である。今池付近においても覚王山付近においても時間によって目的には多少の変化があらわれる。

本山のあたりには意外にたくさんのお店があった。それに、衣料品店も多かった。

大津橋 - 金山

※斜線は3年前の調査結果と比較して変わっているもの。

大津橋	飲食店	飲食店	本	菓子	飲食店	飲食店	郵便局	たばこ	銀行	歩	飲食店	ス	飲食店	写真店	飲食店	英語塾	空	電	空	明	計
	飲食店	飲食店	かんぱん	大津橋	ゴームのト	愛徳加所	アルコ	菓子	空	酒	不動産	空	空	民	家	地	地	地	地	地	地

真金橋	出稼販売	ガレージ	駐車場	銀行	自動車修理	印	ビラ	空	保	保	洋	駐	駐	駐	駐	駐	駐	駐	駐	駐	駐	計
	菓子	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	計

美	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	計
	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	計

美	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	計
	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	計

美	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	計
	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	計

美	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	計
	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	計

美	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	計
	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	空	計

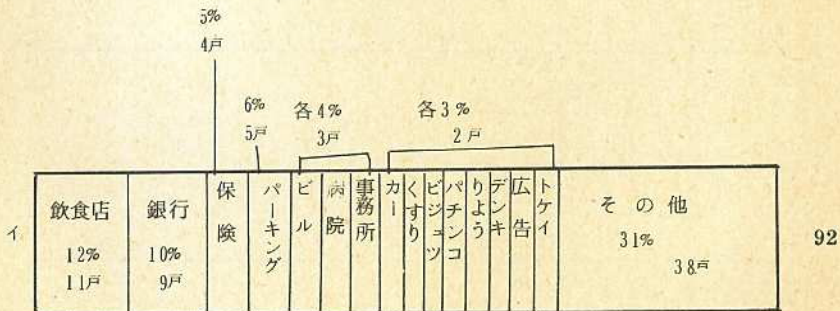
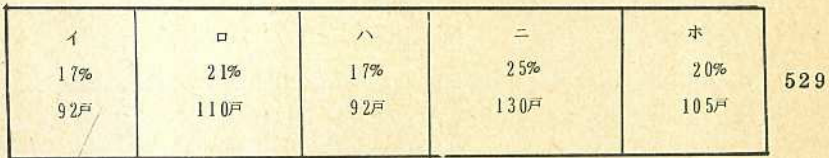
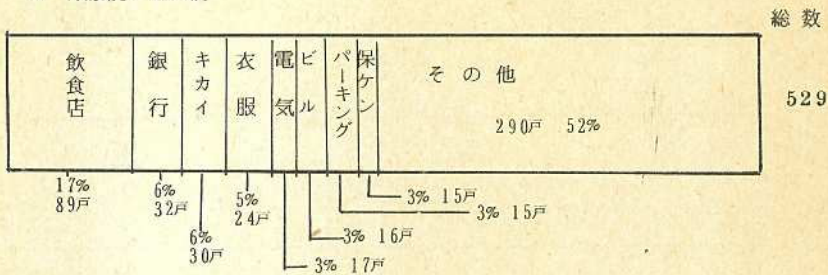


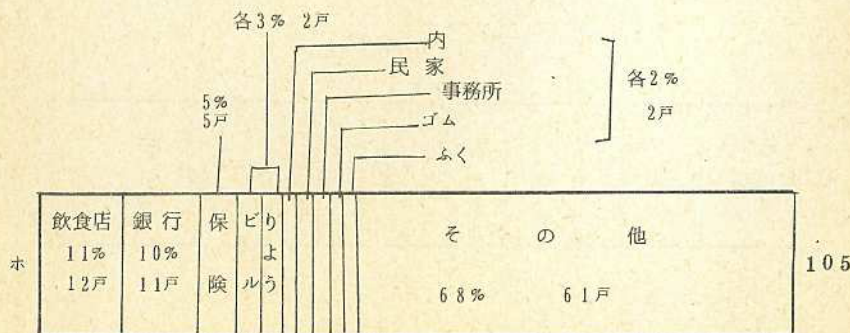
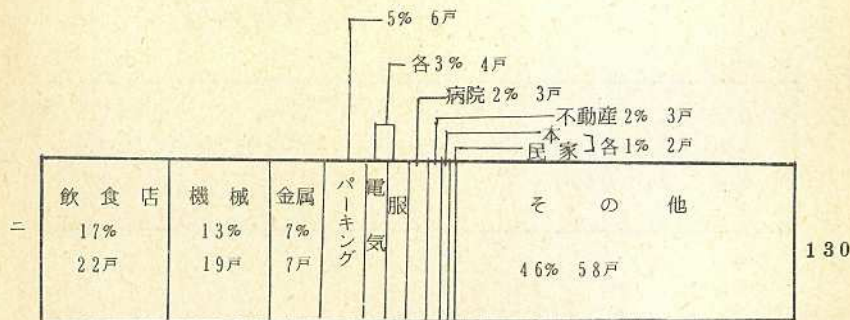
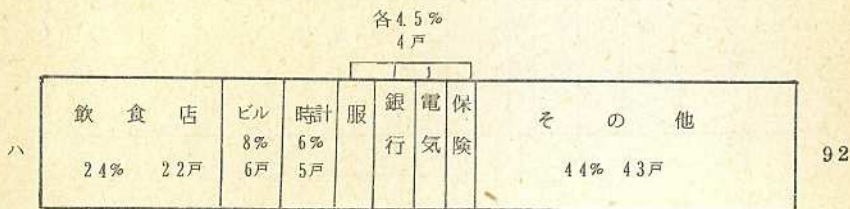
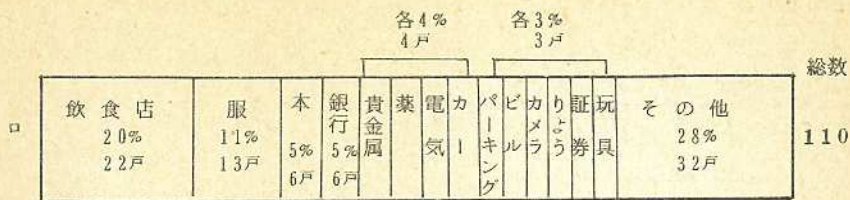


2. 大津橋 - 金山橋間

- イ 大津橋～栄
- ロ 栄～矢場町
- ハ 矢場町～上前津
- ニ 上前津～東別院
- ホ 東別院～金山橋

商店の分析







客に対する質問

質問した場所	性別	年 令	住 所	目 的	感 想
栄 周 辺	男	40	千 種 区	デ パ ー ト	たいへんよい
〃	〃	36	瑞 穂 区	〃	〃
〃	女	28	中 村 区	〃	〃
〃	〃	32	中 区	〃	〃
矢 場 町	男	28	〃	カメラを買いに	買いやすい
〃	女	24	〃	買 物	まあまあ
上 前 津	男	31	〃	銀 行	店の種類が少ない
〃	〃	26	〃	〃	?
〃	女	20	〃	飲 食	まあまあ
〃	〃	32	〃	本	悪 い
東 別 院	〃	24	〃	買 物	店の数が少ない
〃	〃	33	熱 田 区	〃	まあまあ
〃	〃	21	〃	〃	?
金 山	男	14	千 種 区	水 泳	?
〃	〃	27	昭 和 区	買 物	まあまあ
〃	女	38	熱 田 区	〃	店の数が少ない

### 3. 店および客に対する質問

#### 店に対する質問

質問した場所	店 種	性別	年 令 層	客のよく来る日
	銀 行	半 々	20代	月 末
	"	"	30代	"
	"	女	いろいろ	"
	"	半 々	?	"
	飲 食 店	男	30代	土 日
	"	"	20代	?
	"	"	若い人	土
	"	女	35才くらい	日
	"	半 々	25才くらい	"
	"	半 々	30代	"
	ガソリンスタンド	男	20代	月・土
	"	"	若い人	"
	"	"	20代	"
	薬	"	中 年	平 均
	"	"	いろいろ	"
	"	"	40才くらい	"
	食 料 品	女	いろいろ	"
	"	"	30代	土
	電 気	男	若い人	土・日
	"	"	20代	日
	"	"	30代	日

#### 4 大津橋—金山での感想

○平面図について

全体について言えることは、一般家庭に係るような商店が少ないということである。これは、本通りの西側にだけでなく、少しは入り込んだところに、マーケット、日用品などの商店があるからであろう。

しかし、そういうことは榮に近づくにつれてなくなっている。

対照的なのは大津橋 栄間である。大津橋に少し飲食店があるが、あとは事務所や倉庫が多く、ぱっとした商店街とはいえない。

○店に対する質問について

銀行に月末に客が多いということは給料日に関係があると考えてよいだろう。

客が若いということは、将来のために貯金などをしているのである。こんなところにも名古屋市民の堅実さがよくあらわれているといつてよいだろう。

ガソリンスタンドに土・日曜に多いということは週末のレジャーが大きな影響をあたえているといつてよいだろう。

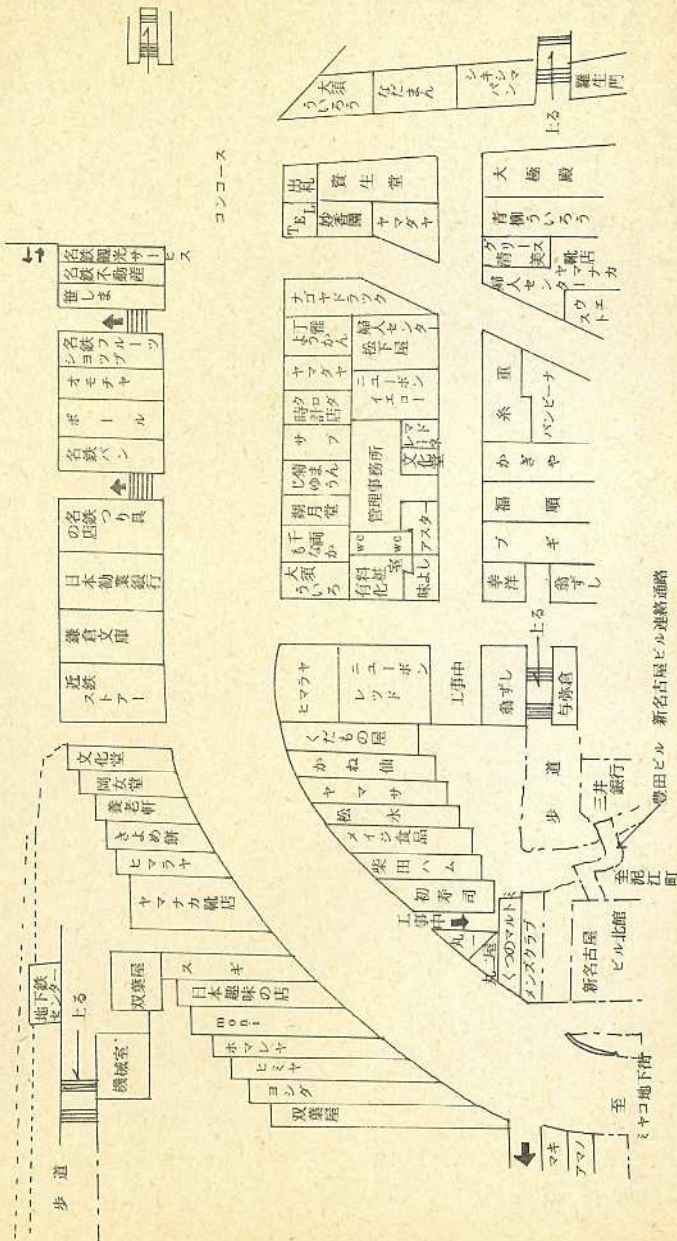
○客に対するアンケート

客のほとんどは、今の商店で満足している。

また、不満な商店の数、種類が少ないというが多かったが、この結果については、質問をした場所にも関係があるようだ。

# (4) 第二部 地下街の調査

## 二名古屋地下街



## 2. 商店の分析

調査店数 76

分類別店数 13種

分 類	店数	分 類	店数
飲 食 店	22	銀 行	1
カ シ 屋	15	不 動 産	1
衣 類	10	サ ー ビ ス 業	1
化 粧 品	4	本 屋	1
ク ッ	3	薬 局	1
時 計	3	舶 来 品	1
く だ も の	3	カ メ ラ	1
レ コ ー ド	2	オ モ チ ャ	1
食 料 品	3	つ り 具	1
茶	2	総 数	76

分類別店数  
名古屋地下街の調査店数

S 4 4. 8. 5 現在

### 3. 店および客に対する質問

#### 店に対する質問

店 名	客の年齢	得意先	男女どちらが多い
バンビーナ	30才~40才	有	女
大須ういろ	39才	無	〃
ヒマラヤ	23才	〃	〃
ヤマナカ靴店	全般	〃	〃
スギ	10才~20才	〃	〃
カメラのヤマノ	20才~30才	〃	男
鎌倉文庫	午前 ~ 10才 午後 ~ 30才	〃	〃
文化堂	20才~30才	〃	〃
ニューボーンレッド	20才	〃	〃
つり具のみせ	中年	〃	〃

#### 客に対する質問

年齢	性別	目的	住所	感想
13	男	しらん	しらん	しらん
19	〃	買物	北区	きれい
46	〃	〃	中川区	きれいな店
22	女	〃	東区	親切
27	〃	ぶらぶら	高山	清潔
30	〃	用事	中川区	あんがいと安い
32	〃	遊び	中村区	親切
32	〃	食事	千種区	まあまあ
36	〃	買物	一宮	買いやすい

#### 4. 名古屋地下街の感想

○通路がわりあい広いと感じるがたいへん混雑していた。

○国鉄の方から来る客よりも名鉄、近鉄の方から来る客が多かった。

○洋装店、靴店などが比較的多く、この名古屋地下街の特色として、名古屋の名産を売る商店が多く、名産を買うのが目的でやって来る旅行者が多いということがあげられる。

○その影響か、得意先がないという商店がわりあい多かった。

○どの地下街でもそうだろうが、調べてみると商店の数が案外少なかった。

○客の年令が若く、二十才前後だった。





## 2. 商店の分析

調査店数，分類別店数

◎ 調査店数 65店

分類別数 21種

分 類	店 数	分 類	店 数
食 料 品	18	茶	1
飲 食 店	15	みやげもの玩具	1
衣 類	8	バッグ・袋もの	1
靴 ・ 下 駄	3	室 内 装 飾	1
た ば こ	2	ク リ ー ニ ン グ	1
宝 石 貴 金 属	2	ア ク セ サ リ ー	1
薬 局	2	民 芸 品	1
書 店	2	ス ポ ー ツ 用 品	1
カ メ ラ	1	婚 礼 用 品	1
美 術 用 品	1	レ コ ー ド ス テ レ オ	1
化 粧 品	1	総 数	1

S 44. 7. 15 現在

### 3. 店, および客に対する質問

#### 店に対する質問

店 の 名	得意先の有無	年 令 層	男女の差
ミ ヤ タ (トケイ・ライター)	有	高 齢 者	男 女 半 々
美 濃 忠 (はき物・かさ)	〃	い ろ い ろ	女 性
シ マ モ ト ( 美 術 用 品 )	〃	〃	男 女 半 々
桂 新 堂 ( エ ビ セ ン ベ イ )	無	〃	女 性
糸 重 ( 洋 装 )	〃	20才前後	〃
升 半 ( 茶 )	〃	中 年	〃
白 金 堂 ( 貴 金 ぞ く )	有	若 い 人	男 性
ナ グ ラ ( 化 粧 品 )	無	20 代	女 性
双 葉 屋 ( バ ッ グ )	不 明	〃	〃

S 4 4. 7. 1 5

客に対する質問 (日曜・休日)

性別	年 令	目 的	住 所	感 想
男	40	買 い 物	一 宮	夏すずしい 雨やどりに便利
〃	50代	〃	多治見	地理がよくわからない
〃	60	美 術 館 に	桜 山	別になし
〃	30	駅 へ	岩 倉	ゴミゴミしている
〃	32	買 物	岐 阜	駅とくらべて広い
〃	35	遊 び に	小 牧	別になし
〃	52	買 い 物	南 区	用もないのにぶらぶらしてる人が多い
〃	30代	〃	沢 上	暑くて混雑している
〃	30	映 画 に	豊 田	特にない
〃	50	仕 事	京 都	環境が良い
女	16	ピアノの練習の帰り	千 種	交通のキケンがない
〃	23	買 い 物	東 山	はじめての人はわかりにくい
〃	30	会 社 の 用	豊 橋	たいへんあつい
〃	45	知り合いの家へ	一 宮	雨にふられず便利
〃	36	買 い 物	桜 山	別でない
〃	20	〃	港 区	あつい
〃	27	映画のかえり	瀬 戸	便利
〃	21	買 い 物	守山区	広くて便利
〃	30	〃	昭和区	空気がきたない
〃	34	し ごと	岐 阜	よくわからない

#### 4. 栄地下街の感想

商店についての感想

○洋装店、洋品店に案が多い。パーゲンセー  
ルでも、それほど安くないのに、若い女性が  
列を作るほどである。

○また、書店、レコード店は男女をとわず若  
い人たちがたいへん多く、にぎやかである。  
○場所によって客の多いところと少ないところ  
の差が大きい。

たとえば、桜通に通じる地下街は、オフイ  
ス街に通じるといえるので通勤者が多く利用  
するため、洋装店なども客は少ないようであ  
る。

○オリエンタル中村方面の各商店は活気があ  
り、人はオリエンタル中村や中日ビルへ流れ  
るため、この方面の商店はたいへん便利であ  
るといえるだろう。また、オリエンタル中村  
などは人の流れが行きつくところであるので  
非常に地理的な条件は良いのだろう。

○改札から市役所行きのもり場のあいだには、  
飲食店が多い。その理由として若い人たち  
(女性中心)の憩いの場、デート(?)など  
に利用されるためであろう。

質問からの感想

○ゴミゴミしているという印象が強いよう  
である。通路は名古屋地下街よりも広いのだが  
やはり人が非常に多いためであろう。

○雨に降られずに買物ができ、デパートなど  
に近いということは大きな利点といえるだろ  
う。それに、地下街とデパートではふんい  
気もまったくちがいで、デパートに与える地下街  
の影響はほとんどないといって良いだろう。

しかし、デパートよりも地下街の人が若い  
人中心といえる。

○交通の危険がない、バスの乗降にも便利と  
いうことは大きな長所といえる。

○空気が悪いこと、暑くなるしいことなどは、  
注目すべき欠点であるといえる。

特に夏は冷房のよくきいているところと、  
ほとんどきいていないところの差が大きく、  
不快である。排気の調整をはかるべきであ  
らう。

地下街を歩いている人たち

○夏休み調査に歩いたときは、何といっても  
若い人中心で活気があった。流行のサングラ  
スや長髪の人たちが多く、名古屋の中心  
というかんじがたいへん強かった。

○休日は、やはり家族づれが多い。

全体的な感想

○何といっても栄は名古屋の中心となる地下  
街である。これからはますます発展して  
いけるであろう。つい最近新しい明るい地下街も  
できたように、若い人たちに多く利用されて  
発展していくと思う。

# 1. 平面図

たばこ・宝くじ		林 商 会
大 須 ウイロ		婦 人 用 品
両 口 屋		お も ち ゃ
えびせんべい		
都 あ ら れ		
ヤ マ キ		
シ キ シ マ パ ン		カ ス テ ー ラ
靴 下 の 店		婦 人 用 品
書 店		化 粧 品
時 計 ・ 袋 物		靴
ク リ ー ニ ン グ		婦 人 用 品
楽 器 ・ レ コ ー ド		カ レ ー の 店
お 茶		プ ラ モ デ ル
お 好 み 焼		地 下 鉄 振 興 所
コ ー ヒ ー		つ け も の 新
軽 食		貝
		ウイロ・ウイロ
		両 口 屋
		松 川 屋
		あ め
		す し
駅 長 室	出 札 所	W C

## 2. 商店の分析

調査店数 33店

分類別々 13種

分 類	店 数
食 料 品	1 3
飲 食 店	5
衣 類	3
靴	2
玩 具	2
書 店	1
ステレオ・レコード	1
ク リ ー ニ ン グ	1
宝 石 ・ 貴 金 属	1
雑 貨	1
化 粧 品	1
茶	1
そ の 他	1
総 数	3 3

### 3. 店および客に対する質問

#### 店にする質問

店名	客の年齢	徳意先	男女どちらが多い
松川屋本店	40才	客10人	両方
安藤商店	40才	10人	〃
クボタ	18~23才	客の半数	女
ヤマダヤ	全般	有	〃
長崎堂	中年	〃	〃
ムラホ	20~40才	〃	〃
音楽堂	昼学生 夜30~40才	〃	〃
妙香園	50才	だいたい	両方
シキシマ	主婦	有	女
都寿司	若い人	客の半数	〃
みかど	30~40才	すくない	〃
ふる里	高校生	有	〃
ふる里	若い人	〃	男
書店	全般	〃	女

客に対する質問

年齢	性別	目的	住所	感想
13	男	しらん	千種区	しらん
13	〃	遊　　び	〃	しけとる
23	〃	みやげ	昭和区	みやげ物がない
25	〃	仕事の帰り	東　　区	きたない
25	〃	地　下　鉄	千種区	せまい
35	〃	買　　物	だいこう町	便利
36	〃	おもちゃを買う	大　　山	きれい
47	〃	あまやどり	瑞穂区	しけとつていやだ
48	〃	買　　物	猪高町	すずしい
59	〃	守　　衛	地下街	みんないい人だ
18	女	学校へ行く所	中村区	静か
19	〃	買　　物	守山区	底が少ない
20	〃	アルバイト	南　　区	〃
24	〃	買　　物	千種区	雨にぬれくない
32	〃	〃	〃	店が少ない
32	〃	〃	神田町	？
36	〃	主人の帰り待ち	桑　　名	ベンチがあるとよい
39	〃	買　　物	千種区	なし
42	〃	父兄会の帰り	春日井	にぎやか、店がいっぱい
69	〃	子どもの用事	しんぼ町	関係なし



#### 4. 今池地下街の感想

中心部でないため商店が少なく、客も少ない。路上の繁華街に比べると、みすばらしい感じがした。

その理由として、名駅前や栄は乗り換え地点なので人の往来が多いが、今池はそうでないからだということがあげられる。

したがって、今後あまり大きな発展は望めない地下街である。

研究を終わって

これで、私たち郷土研究クラブは、昭和四十四年度の共同研究「名古屋市の地下街、主要商店街の調査」は、すべて終わったわけである。

四月以来、かんたんなようで、実際に行なってみると大変な仕事だということを強く感じながらもどうにかこうにか体育文化祭までこぎつけたわけであったが、その間にはいろいろなことがあった。

まず、平面図の作成。特に路上の商店街。資料が多すぎたこともあって二度も紛失するグループがあった。これで大へん仕事がおく

れた所があった。

地下街では、ひととおり完成した後、栄に新しく東地下街が完成。十一月にはサカエチカも完成し今では、この研究とは段違いの大規模なものになっている。

質問も、歩いている人には話しかけにくいということもあって、なかなか順調には進まなかった。また店員に、客への質問をしてしまったというような笑い話もあった。その他解答にも愉快なものがあり、全体をとおして見るとたいへんおもしろいものだった。

感想、分析ということ、皆頭をひねったが、なかなかまとまらず、先生の力を借りて：：というようなこともたびたびあった。

これは特に私たちの研究の価値を決定するものなので、もう少し、頑張りたかった。

そのできばえについては、この研究でごらんのとおりである。

さて、ひととおり研究に目をとおして見ると、何かきめ手というような、これといったものが欠けているのに気づく。

しかし、たくさんの人数が行なった研究だけに、それも無理のないことだろうと思う。

そのほかにも、チームワークのとれなかつ

た点、協力の足りなかつた点などが多くありこれからは失敗の原因だったといえる。

原稿がそろわなかつたり、グループのリーダーの集合時間が連絡されなかつたりというような失敗は残念でならない。

そして、ひとりひとりの果たす責任の大きさというものがどんなにたいせつなものだったか、今、ようやくわかつたような気がする。こう書いていくと、欠点だらけの活動のようだが、決してそうではなかつた。

三年生の人たちの協力、日曜日も、文化祭のための旅行案内を捜してくれた人たちなど自分のために使いたい時間をさいてくれたことに対して私たちはたいへん感謝している。

最後に、この研究を終え、編集をしてみても感じたことを記そう。どんなクラブ活動においても必要だが、協力とひとりひとりが責任を果たすことのたいせつさということである。今年の研究では、それらが充分でなかつたため失敗が多くあったがこれからは、この体験を生かし皆で協力をし、より良い研究を行なっていきたいと思う。

## 社会科郷土研究クラブ員

顧問 神田史郎先生

部長	2-3	柴田和也	副部長	2-11	丸山都
1-5	丹羽	八寿子	3-10	七条	典和
1-12	小塚	恵子	3-12	松井	井和彦
〃	坂井	千代美		後藤	尚理
1-13	高木	康光		石原	定幸
2-3	加藤	芳樹			
2-4	犬飼	伊津子			
〃	渡辺	修			
〃	大倉	悟		計	23名
〃	鬼頭	利幸			
〃	鈴木	俊之		(S 44.	12.現在)
〃	古井	伸幸			
2-6	木全	能之			
〃	水野	隆俊			
〃	岩田	淳			
2-11	佐竹	法明			
〃	佐藤	澄子			
2-12	道家	浩之			
〃	浅見	明			

# 編集後記

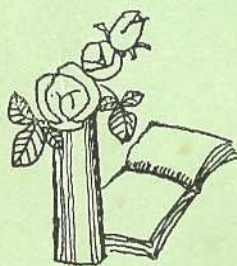
「おはよう 編集委員君たちよ。このたび例年どおり、生徒会誌を作ることにになった。そこできみたちの指命だが、生徒会誌の編集をすることにする。成功を祈る。」てなぐうちに、編集委員になったんじゃネーが、いちようどうしたわけか、十二人の編集委員があつまった。かくて我々は、編集を初めたわけだが、これがまたどうして、そなたやすくはなかつた。まあ例を上げてみよう。

まずバレーボール大会の時であった。マア思い出すネエ。皆が練習をしているのに我々編集委員は、外をうらやましそうに見ながら義務と責任を感じているのか、皆編集の計画をたてた。まずまず計画がたつたので実行に移つたが、やれどもやれどもちつとも進まないという感じで、みんないやげがさしたのか一時は、委員が分裂した状態におちいった。しかしそこはそれ私の実力がものをいい（事実はりっパナ？委員長の働き）なんとか委員

をふたたび固く結びつけることができた。かくして我々は、固く団結して、このたびの生徒会誌の編集をしあげたのでアリマス。

ここで一口、我々編集委員は言いたい。君たちはこれをみて「なんだくだらん。何がおもしろいんだ。などと思うだろう。しかしここで再び考えなおしてもらいたい。生徒会誌は我々みんなの物だということをし、我々編集委員は、この生徒会誌により、強い団結と、皆で苦しみながら完成をめざして努力したこの喜びとを知った。これを君たちがこの生徒会誌によって知ってくださることこそ、我々の生徒会誌の役わりがはたされるのではないだろうか。

Go, boys!  
Go, girls!  
Go, / Go, / Go, /



## 編集委員

〇一年

二組 向田 瑞穂  
四組 大貫 一仁  
九組 大川 精二

〇二年

三組 柴田 和也  
四組 神野 正雄  
五組 早川 敦子  
六組 竹中 睦子  
七組 津田 竜太郎  
八組 天野 善之

〇三年

一組 竹内 詠美子  
四組 近藤 要司  
九組 金子 芳邦

